

保存版

わが家の 防災マニュアル



大分市

市長あいさつ



大分市長
佐藤 樹一郎

市民の皆さまには、日頃より防災行政をはじめ市政に対してご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

わが国の国土は、その位置、地形、地質などから、地震、風水害などの自然災害が発生しやすく、平成24年の九州北部豪雨、平成26年の広島土砂災害などの想定を超える被害が発生しており、とりわけ平成23年3月11日の東日本大震災では、巨大地震や大津波により、東北地方の沿岸部は甚大な被害に見舞われました。

また、本市におきましては、今後30年以内に70%程度という高い確率で発生が予想される南海トラフを震源とした巨大地震と、これに伴う津波による被害が懸念されております。

こうしたいつどこで発生するかわからない災害に備え、本市では「防災安全の確保」を基本的な政策として掲げ、様々な防災・減災の取り組みを進めておりますが、ひとたび発生した災害から自らを、そして地域を守るためには、何よりも市民の皆様一人ひとりが防災意識を高めていただき、自主防災組織の活動を活性化することが肝要であります。

この「わが家の防災マニュアル」は本市域内で発生が予想される様々な災害に応じた知識と備えをわかりやすくまとめているので、ご家族で災害対策について話し合っていたりご活用いただくとともに、地域で防災訓練などを行う場合には、ぜひとも役立てていただきますようお願いいたします。

平成27年5月

もくじ

地震対策

東南海、南海地震に備えましょう	1
大分市に関連のある活断層を知っておきましょう	2
地震の正しい知識を身につけましょう	3
地震が起きたらどうするか？	4

津波対策

津波の危険から身を守りましょう	6
-----------------	---

津波・地震ハザードマップ

津波・地震ハザードマップ全体図	10
津波・地震ハザードマップ①	12
津波・地震ハザードマップ②	14
津波・地震ハザードマップ③	16
津波・地震ハザードマップ④	18
津波・地震ハザードマップ⑤	20
津波・地震ハザードマップ⑥	22
津波・地震ハザードマップ⑦	24
津波・地震ハザードマップ⑧	26
津波・地震ハザードマップ⑨	28
津波・地震ハザードマップ⑩	30

ゆれやすさ・液状化危険度マップ

ゆれやすさマップ	32
液状化危険度マップ	33

風水害対策

風水害に備えましょう	34
集中豪雨から身を守りましょう	35
土砂災害から身を守りましょう	36
台風から身を守りましょう	38
高潮から身を守りましょう	39

洪水ハザードマップ

① 大分川・祓川・住吉川	40
② 大分川・米良川・尼ヶ瀬川・七瀬川	42
③ 大分川・尼ヶ瀬川・七瀬川	44
④ 大分川・七瀬川	46
⑤ 大野川・乙津川・原川・今堤川	48
⑥ 大野川・乙津川・北鼻川	50
⑦ 河原内川・戸次古川・大野川・判田川・立小野川	52
⑧ 尾田川・尾山川・丹生川	54
⑨ 小猫川・志生木川	56

火災対策

火災による被害をなくすために	58
----------------	----

地域防災

地域ぐるみで支え合いましょう	60
----------------	----

放射線災害対策

もし、放射線災害が起きたら	62
---------------	----

災害時の避難

災害時の避難のポイント	63
-------------	----

応急手当

覚えておきたい応急手当	64
-------------	----

防災情報

防災情報の入手方法を知りましょう	66
緊急時のテレホンガイド	67

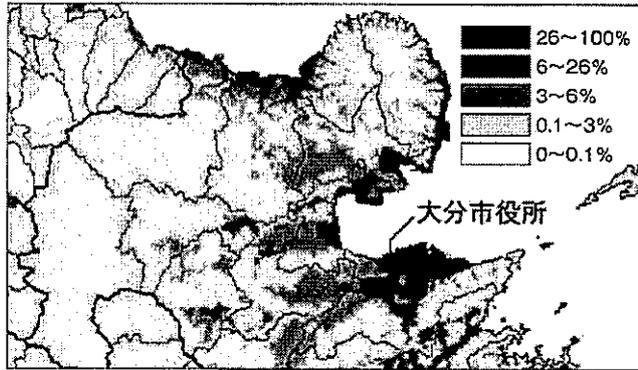
チェックリスト

非常持出品チェックリスト	68
わが家の防災チェックリスト	69
あなたの家の安全度を調べておきましょう	70
大分市指定避難所一覧	72
●わが家の防災メモ	裏表紙

地震の正しい知識を身につけましょう

大分市をおそう大きな揺れを伴う地震の危険性は？

2012（平成24）年12月21日、地震調査研究推進本部の地震調査委員会は、今後30年以内は大分市役所付近において震度6弱以上の大きな揺れを伴う地震が起きる確率が50.2%と推計しました。



出典：地震調査研究推進本部「全国地震活動予測地図」より

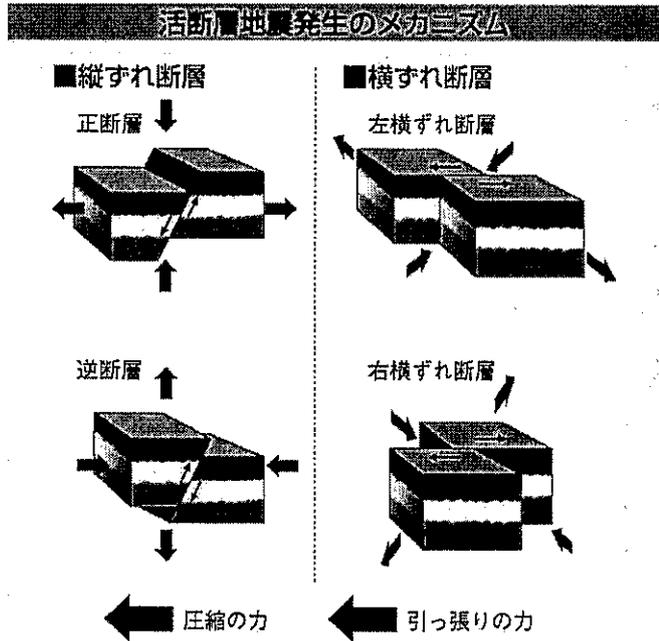
地震発生のしくみ

●活断層による地震

プレートに蓄積されたひずみのエネルギーが、プレートの内部で破壊を引き起こし、断層が動き地震が発生します。1995（平成7）年の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）は、プレートの内部における内陸型地震でした。

●海溝型の地震

日本列島が乗っている大陸側のプレートに、海洋側のプレートが毎年数センチもぐり込んでいます。そのときに大陸側のプレートが引きずり込まれ、プレート同士の境目にひずみが蓄積されます。それが限界に達したときに、元に戻ろうと急激に動き地震が発生します。2011（平成23）年3月11日の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は、まさにプレートの境界域における海溝型地震でした。



地震の揺れと被害想定 (気象庁震度階級表より作成)

震度0	人は揺れを感じない。	震度5弱	大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。棚にある食器類や本が落ちることがある。
震度1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	震度5強	固定していない家具や、外では自動販売機が倒れることがある。自動車の運転は困難。
震度2	屋内で静かにしている人の多くが、揺れを感じる。つり下がっている電灯などがわずかにゆれる。	震度6弱	立っていることが難しい。壁のタイルや窓ガラスがわれ、ドアが開かなくなることがある。
震度3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じ、棚にある食器類は首をたてる。	震度6強	立っていられず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
震度4	眠っている人のほとんどが目覚ます。部屋の不安定な置物が倒れることがある。電線が大きく揺れる。	震度7	耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液化化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

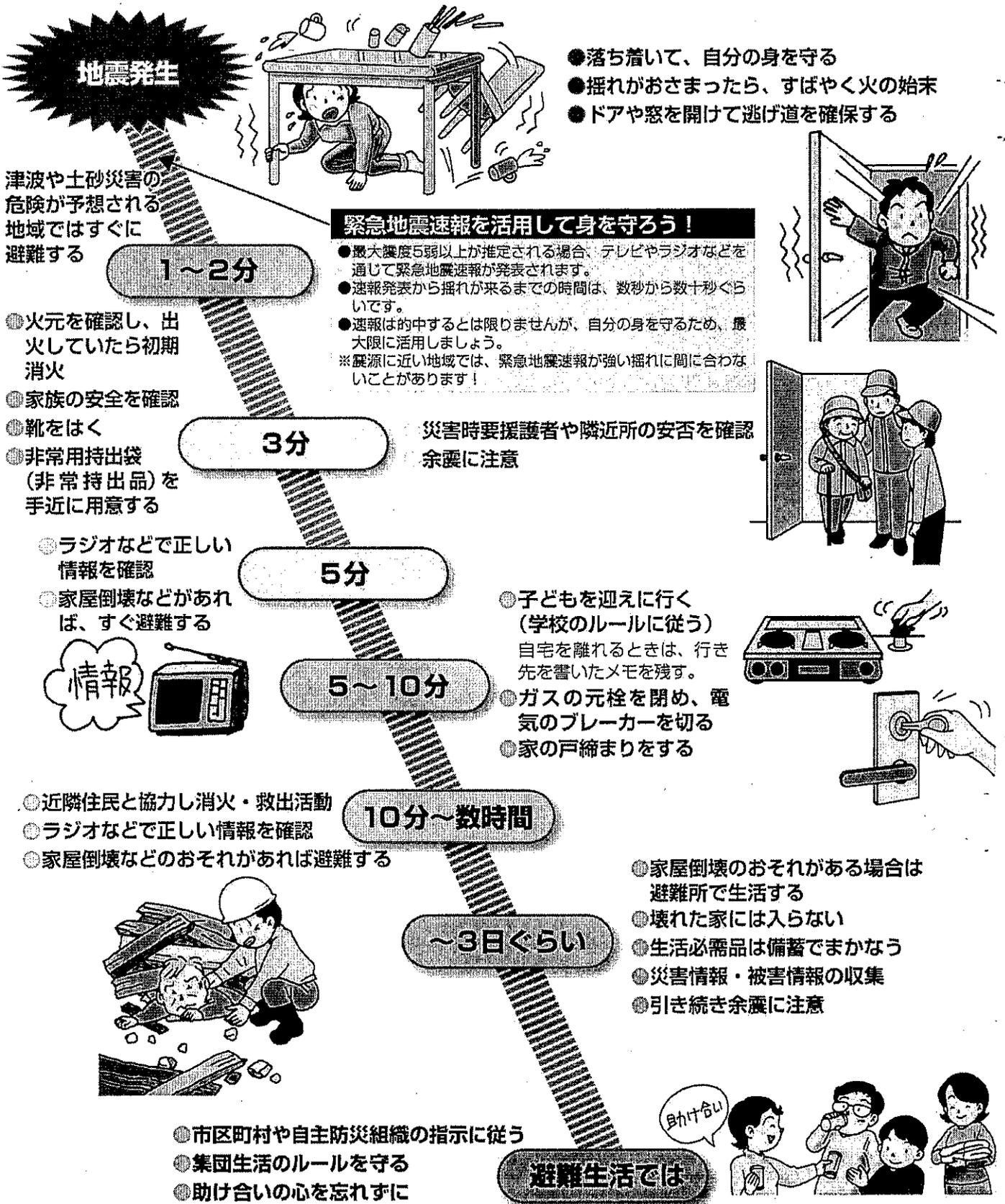
応急手当

防災情報

チェックリスト

地震が起きたらどうするか？

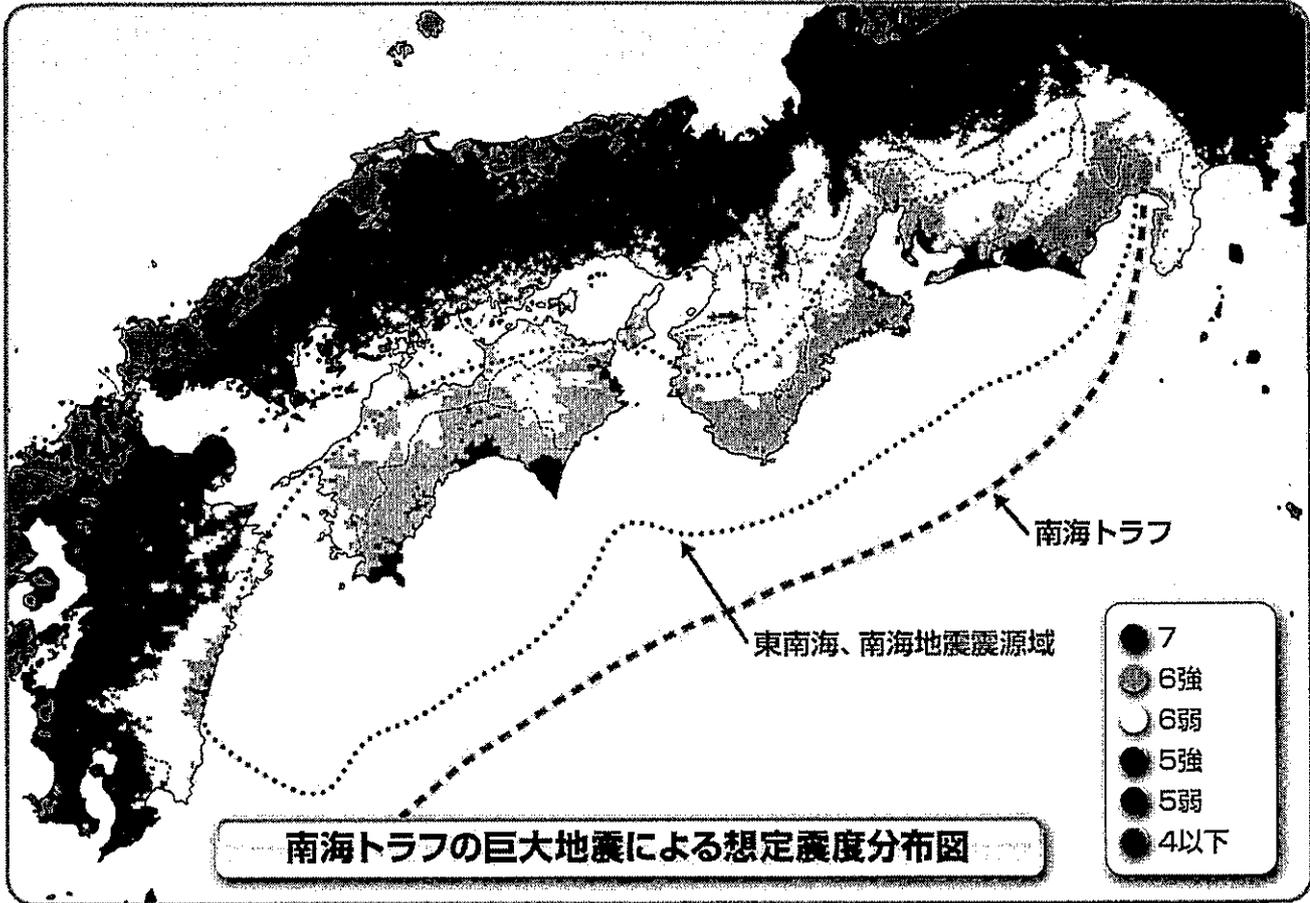
大きな地震が発生したとき、冷静に対応するのは難しいものです。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。いざというとき「あわてず、落ち着いて」行動するために、行動パターンを覚えておきましょう。



東南海、南海地震に備えましょう

東海沖から四国沖にかけての領域を震源とする東南海、南海地震の今後30年以内の発生確率は、東南海が70～80%、南海が60%程度とされています。この二つの地震は、近い将来の発生が確実視されている東海地震と同様マグニチュード8クラスの巨大地震で、強い揺れや津波が来襲する地域も広範囲にわたると予想されています。

内閣府が2012（平成24）年8月29日に発表した「南海トラフ巨大地震」の被害想定において、大分市も震度5強以上の強い揺れや津波のおそれもあるので、いざというときに備え、日ごろから防災意識を高めておきましょう。



（出典：中央防災会議資料）

南海トラフの海溝型地震の発生確率

領域又は地震名	発生確率 (%)		特記事項
	30年以内	50年以内	
東南海地震	70%～80%	90%程度、もしくはそれ以上	大津波を伴う地震が、約300年～400年と約700年の間隔で繰り返し発生したと推定される（直近は1707年の宝永地震）（注2）。
南海地震	60%程度	90%程度	

出典：地震調査研究推進本部資料

注1 上記地震が同時に起きる場合などの発生確率は公表されていない。

注2 千田・大分大学名誉教授が共同で行った佐伯市米水津の龍神池での津波堆積物調査に基づく。

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

防災情報

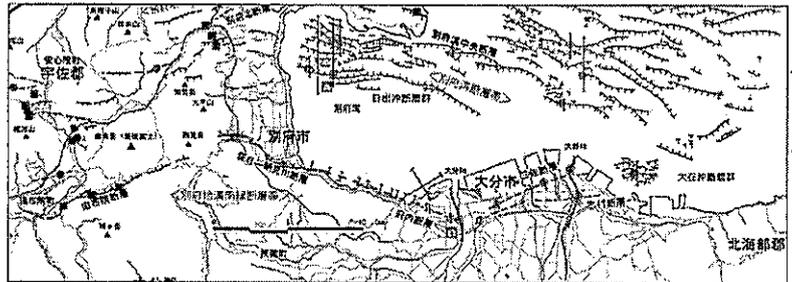
チェックリスト

大分市に関連のある活断層を知っておきましょう

大分県内の活断層には、共通する性格をもつ5つのグループに分けられます。その中で大分市に関連する活断層として、【別府湾断層帯】・【別府地溝南縁断層帯】があり、【別府湾断層帯】の最新活動時期は、1596（慶長元）年の慶長豊後地震にほぼ一致しており、この地震の際に活動したと判断されます。また【別府地溝南縁断層帯】は大分市内の地下に存在している「府内断層」「三佐断層」「志村断層」と「湯布院断層」「堀田一朝見川断層」で最新活動時期は約300年～約2300年前と推定されます。

近い将来に、これらの活断層帯が動いて地震を発生させる可能性は、あまり高くないと判断されます。

※詳しくは、大分県ホームページ「活断層調査の結果」
<http://www.pref.oita.jp/soshiki/13550/katsudansou-kettuka.html>をご覧ください。



活断層型地震の発生確率

活断層名		発生確率 (%)		特記事項
		30年以内	100年以内	
別府湾-日出生断層帯 (東部)	(別府湾断層帯)	ほぼ0	ほぼ0~0.005	※別府湾を震源とする地震として、1596年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。
大分平野-由布院断層帯 (東部)	(別府地溝南縁断層帯)	0.03~4	0.2~10	

出典：地震調査研究推進本部資料

過去に大分市内に被害をもたらした主な地震

西暦 (和暦)	地震発地域	マグニチュード (M)	被害の概要
1596年9月4日 (慶長元年) 慶長豊後地震	別府湾	7.0±1/4	高崎山が崩壊。湯布院、日出、佐賀関で山崩れ。府内(大分)、佐賀関で家屋倒れ。津波(4メートル)により大分付近の村屋は全て流れる。大分沖の瓜生島が陥没し溺死708人との記録がある。
1707年10月28日 (宝永4年) 宝永地震	五畿七道	8.4	我が国最大級の地震の1つ。被害は駿河、甲斐、信濃、美濃、紀伊、近江、畿内、播磨、富山、中国、四国、九州に及び、特に東海道、伊勢湾、紀伊半島の被害が大きかった。県内で大分、木付、鶴崎、佐伯で震度5~6であった。津波が別府湾、臼杵湾、佐伯湾に襲来した。
1854年12月24日 (安政元年) 安政南海地震	畿内、東海、東山、北陸、南海、山陰、山陽道	8.4	前日発生した安政東海地震の32時間後に発生した。被害の大きかったのは紀伊、畿内、四国であった。県内では、別府で震度5~6であった。大分藩で家潰4,546軒、死者18。臼杵藩で家潰500軒。津波は佐伯で2メートル。
1946年12月21日 (昭和21年) 南海地震	東海道沖	8.0	被害は西日本の太平洋側、瀬戸内に及んだ。津波も発生し、房総半島から九州沿岸を襲った。県下では震度3~5、津波は約1メートルであった。被害は死者4、負傷10、建物倒壊36、半壊91、道路の破損8。
1968年4月1日 (昭和43年) 日向灘地震	日向灘	7.5	被害が大きかったのは高知県と愛媛県であった。県内では負傷1、道路損壊3、山崩れ3。津波が発生した。
1975年4月21日 (昭和50年) 大分県中部地震	大分県中部	6.4	湯布院町崩山、庄内町内山付近を震源。地震前には山鳴り、地震時には発光現象がみられた。震度は湯布院で5、大分4、日田、津久見3であった。被害の区域は庄内町、九重町、湯布院町、直入町と狭かったが家屋の被害はひどく、庄内町丸山、九重町寺床ではほとんどの家屋が全壊または半壊であった。主な被害は次のとおり。(大分県災異誌等による) 庄内町：負傷5、建物全壊31、半壊39、道路破損57、崖40 九重町：負傷11、建物全壊41、半壊34、道路破損84、崖98 湯布院町：負傷6、建物全壊0、半壊24、道路破損21、崖36 直入町：建物全壊5、半壊18、道路破損16、崖4など
1984年8月7日 (昭和59年)	日向灘北部	7.1	大分で震度4、日田で震度3。大分市、佐伯市でブロック塀の倒壊、屋根瓦の破損がみられた。岡城址では三の丸跡に亀裂が生じた。
2006年6月12日 (平成18年)	大分県西部	6.2	佐伯市で震度5弱。佐伯市で住家1棟、豊後大野市で住家2棟の一部破損の被害。
2006年9月26日 (平成18年)	伊予灘	5.3	国東市、臼杵市、佐伯市で震度4。臼杵市で住家2棟の一部破損。佐伯市で落石2箇所、通行止め1箇所発生。

出典：「大分市地域防災計画 震災対策編」より抜粋。

大きな揺れを感じたら

■ 屋内にいたら

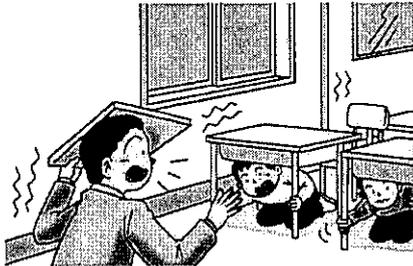
▶ 家の中

- テーブルの下に隠れ、身を守る。
- 無理をして火を消そうとしない。
- 裸足で歩き回らない。
- 乳幼児や病人、高齢者など災害時要援護者の安全を確保する。



▶ 職場や学校にいるとき

- 職場や教室にいるときは、すぐに机の下にもぐり、机の脚をしっかりと持つ。
- 揺れがおさまったらガス湯沸かし器などのスイッチを切るなど、火元を確認する。



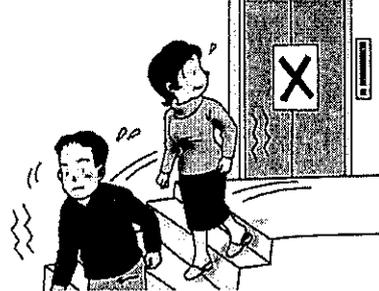
▶ エレベーターの中

- 地震時管制運転装置付きエレベーターは、自動的に最寄りの階に停止するのでそこで降りる。自動で停止しない場合は、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出る。



▶ 集合住宅

- ドアや窓を開けて逃げ道を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対使わない。



■ 屋外にいたら

▶ 路上

- ブロック塀や自動販売機などから離れる。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。
- 頭をかばんなどで保護して、空き地や近くの公園などに避難する。



▶ 車を運転中

- 徐々にスピードを落とし、路肩に停車する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ロックもしない。徒歩で避難する。



▶ 海岸付近

- 海岸にいたら直ちに高台や近隣の高いビルなどの避難場所へ逃げる。
- 注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液化化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

防災情報

チェックリスト

津波の危険から身を守りましょう

東日本大震災による津波の被害状況でも分かる通り、津波のすさまじい破壊力に誰もが恐怖を覚えました。津波による被害状況を再認識しておきましょう。

大分市でも過去に津波被害があった！

1596（慶長元）年の慶長豊後地震では、大分市沖にあった瓜生島が陥没し、溺死708人との記録が残っています。また、1946（昭和21）年の南海地震での津波の高さは、大野川で40センチ、2010（平成22）年のチリ中部沿岸地震では大分市で30センチ、2011（平成23）年の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）では大分市で42センチを記録しました。



東日本大震災では大型タンカーが内陸まで打ち上げられました



家や大型トラックなども流されました

■南海トラフの海溝型地震における最大津波高および到達時間

地点	1メートル波高到達時間	最大津波高到達時間	最大津波の高さ(メートル)
田ノ浦ビーチ	1 時間 27 分	1 時間 47 分	4.44
豊海五丁目	1 時間 27 分	1 時間 41 分	4.30
大野川河口	1 時間 28 分	1 時間 48 分	3.60
佐賀関港	1 時間 3 分	1 時間 15 分	4.09
佐賀関西町	53 分	1 時間 9 分	8.31
上浦漁港	50 分	1 時間 10 分	5.97

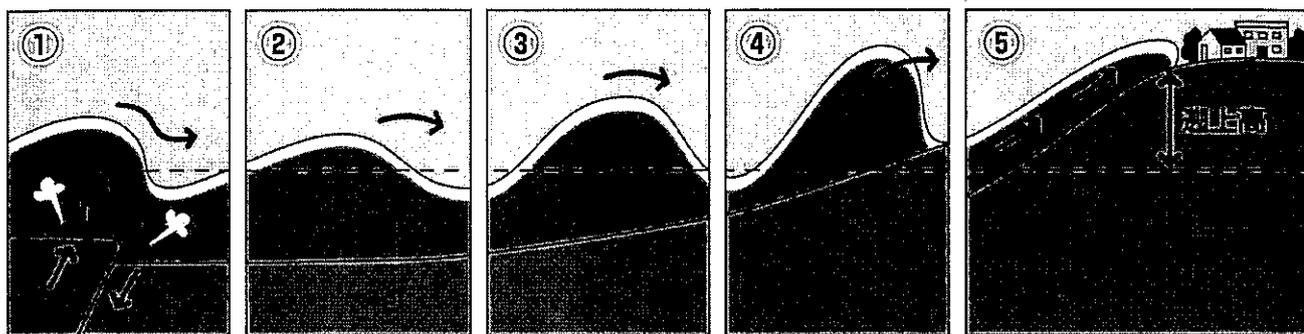
■別府湾の活断層型地震における最大津波高および到達時間

地点	1メートル波高到達時間	最大津波高到達時間	最大津波の高さ(メートル)
田ノ浦ビーチ	18 分	39 分	6.49
豊海五丁目	17 分	57 分	6.70
大野川河口	18 分	1 時間 3 分	7.26
佐賀関港	3 分	5 分	2.96
佐賀関西町	—	1 時間 25 分	1.91
上浦漁港	—	1 時間 24 分	2.15

資料：大分県津波浸水予測調査結果（確定値） ※「—」は表題の波が到達しない地点

津波はどのようにおそってくるのか

海底で起きた地震が原因で、海水が陸地に押し寄せる現象を津波といいます。



地震による海底面の隆起沈降が、海水の上下変動を起こす。

波となって四方に伝わる。

水深が浅くなるに従って波が高くなる。

さらに海底の地形の影響で波が高くなる。

陸上へ打ち上げる。

- 気象庁が発表する「津波の高さ」とは、津波がない場合の潮位（平常潮位）から、津波によって海面が上昇したその高さの差をいいます。
- 津波の高さは、海岸や湾の地形によって予想された数倍に達することがあります。
- 津波が海岸を駆け上ることを遡上といい、ときには数十メートルに及ぶことがあります。この高さを「遡上高」といいます。

過去に大分市内に被害をもたらした主な津波

西暦（和暦）	地震発生地域	マグニチュード(M)	被害の概要
1596年9月1日 （慶長元年） 慶長豊後地震	伊予灘	7.0	別府湾で発生。大音響と共に海水が引いた後大津波が来襲。大分付近の村は全て流失。佐賀関では田畑60余町歩流失。大分市沖にあった瓜生島が陥没し、溺死708人との記録がある。
1854年12月24日 （嘉永7年） 安政南海地震	紀伊半島沖	8.4	津波は伊豆半島から九州、サンフランシスコまで及んだ。被害は紀伊半島から四国がひどかった。県内での津波の高さは、佐伯で2メートルと推定される。
1931年11月2日 （昭和6年）	日向灘	7.1	別府湾から南へ200キロにわたり発光現象があった。
1939年3月20日 （昭和14年）	日向灘	6.5	大分県沿岸で家屋の壁のはく落、土地の小亀裂などの小被害があった。
1946年12月21日 （昭和21年）	紀伊半島沖	8.0	津波は房総半島から九州にいたる沿岸を襲った。県内での津波の高さは、別府で70センチ、大野川で40センチ、臼杵で40センチ、佐伯で1メートルであった。
1960年5月23日 （昭和35年） チリ地震津波	チリ沖	9.5	宮崎県油津海岸での津波の高さは、1.3メートルであった。
2010年2月27日 （平成22年）	チリ中部沿岸	8.8	津波の高さは、別府港で41センチ、大分で30センチであった。
2011年3月11日 （平成23年） 東北地方 太平洋沖地震	三陸沖	9.0	津波の高さは、別府港で55センチ、大分で42センチ、佐伯市松浦で43センチであった。

出典：「大分市地域防災計画 防災対策編」

地震対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

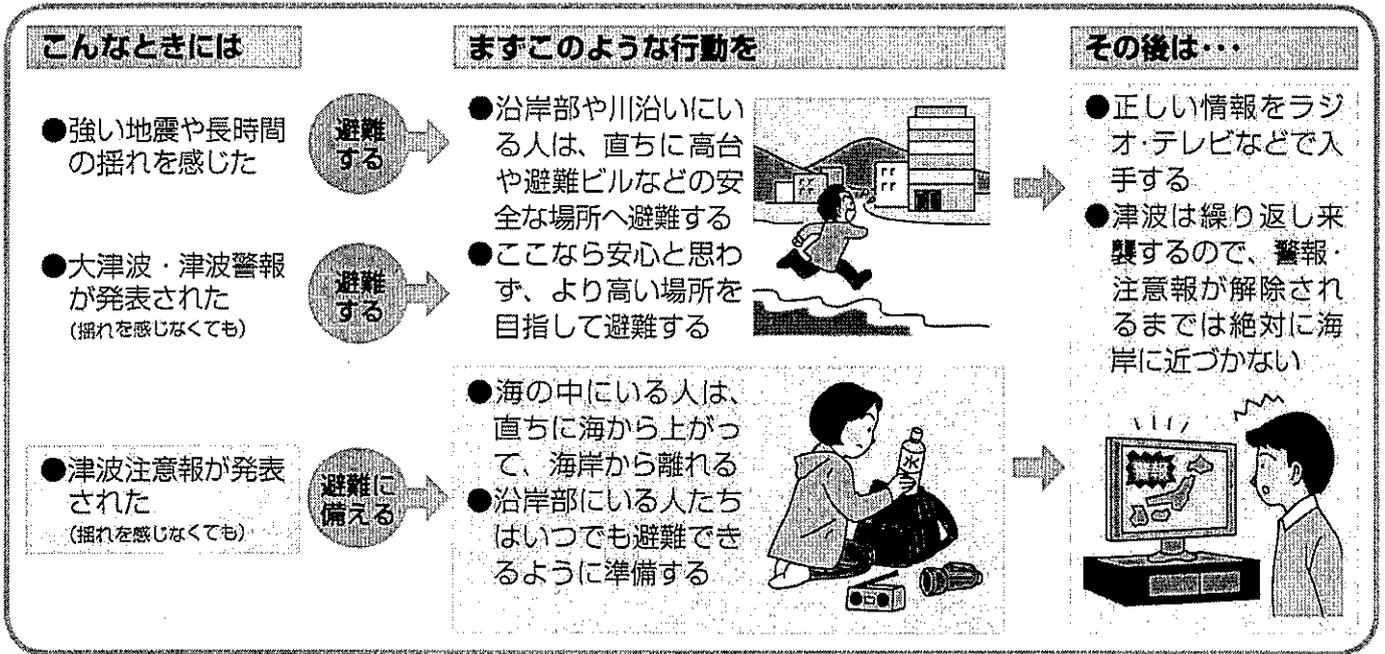
災害時の避難

応急手当

防災情報

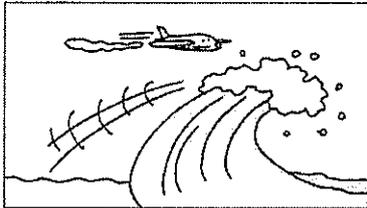
チェックリスト

津波から命を守る対応チャート

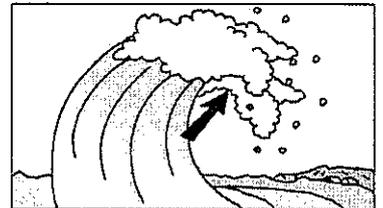


津波はこんなところに注意！

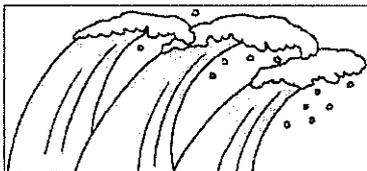
水深が深いほど
ジェット機並みの
速さ！



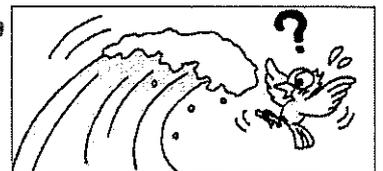
津波の高さは
想像を超える！



津波は繰り返し
おそってくる



引き潮がなくても
津波はおそう



津波に関する注意報・警報

津波による災害の発生が予想される場合、大津波警報、津波警報、津波注意報を発表します。また、マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、最初の津波警報で、予想される津波の高さを「巨大」「高い」という言葉で発表して非常事態であることを伝えます。津波警報を聞いたら、直ちに避難しましょう。

	予想される津波の高さ		想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現	
大津波警報	10m 超 (10m<高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<高さ≤10m)		
	5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm<高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだや流し小型船舶が転覆する。

・震源が陸地に近いと津波警報が津波の襲来に間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
 ・津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
 ・地震発生後、予想される津波の高さが20センチ未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」を発表します。

(気象庁資料より)

津波から避難する3つのポイント

POINT

①

地震の揺れの程度で判断しない

津波の危険地域では、まずは避難を最優先に。

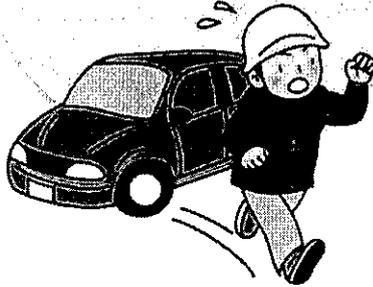


POINT

②

避難には車を使わない

原則として、車で避難するのはやめる。

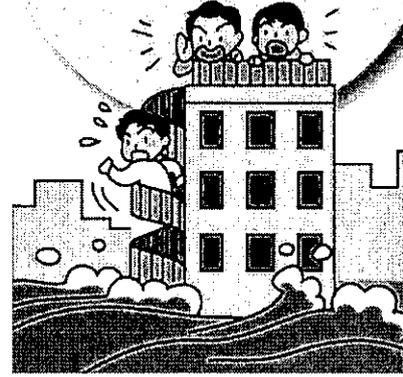


POINT

③

「遠く」よりも「高く」に

すでに浸水が始まってしまっていたら、「より高い」場所に逃げるのが原則です。



津波被害における大分市の避難判断基準

防災サイレンと鐘音の信号パターン

	サイレン	鐘音
大津波警報	●— 休止 ●— 休止 ●— 約3秒 約2秒 約3秒 約2秒 約3秒	○—○—○—○—○— (連点)
津波警報	●— 休止 ●— 約5秒 約6秒 約5秒	○—○— ○—○— ○—○— (2点)
津波注意報	●— 休止 ●— 約10秒 約2秒 約10秒	○—○—○— ○—○—○— (3点と2点との斑打)
津波注意報および津波警報解除	●— 休止 ●— 約10秒 約3秒 約1分	○ ○ ○—○— (1点2個と2点との斑打)

津波避難に関するマークを覚えておこう!



津波注意 (危険地域)

「地震が起きた場合、津波が来襲する危険性が高い地域」を表しています。



津波避難場所

「津波に対して安全な避難場所・高台」を表しています。



津波避難ビル

「周りに高台がない場合に利用する。津波から避難できる高さ・耐震を有するビル(津波避難ビル)」を表しています。

地震対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

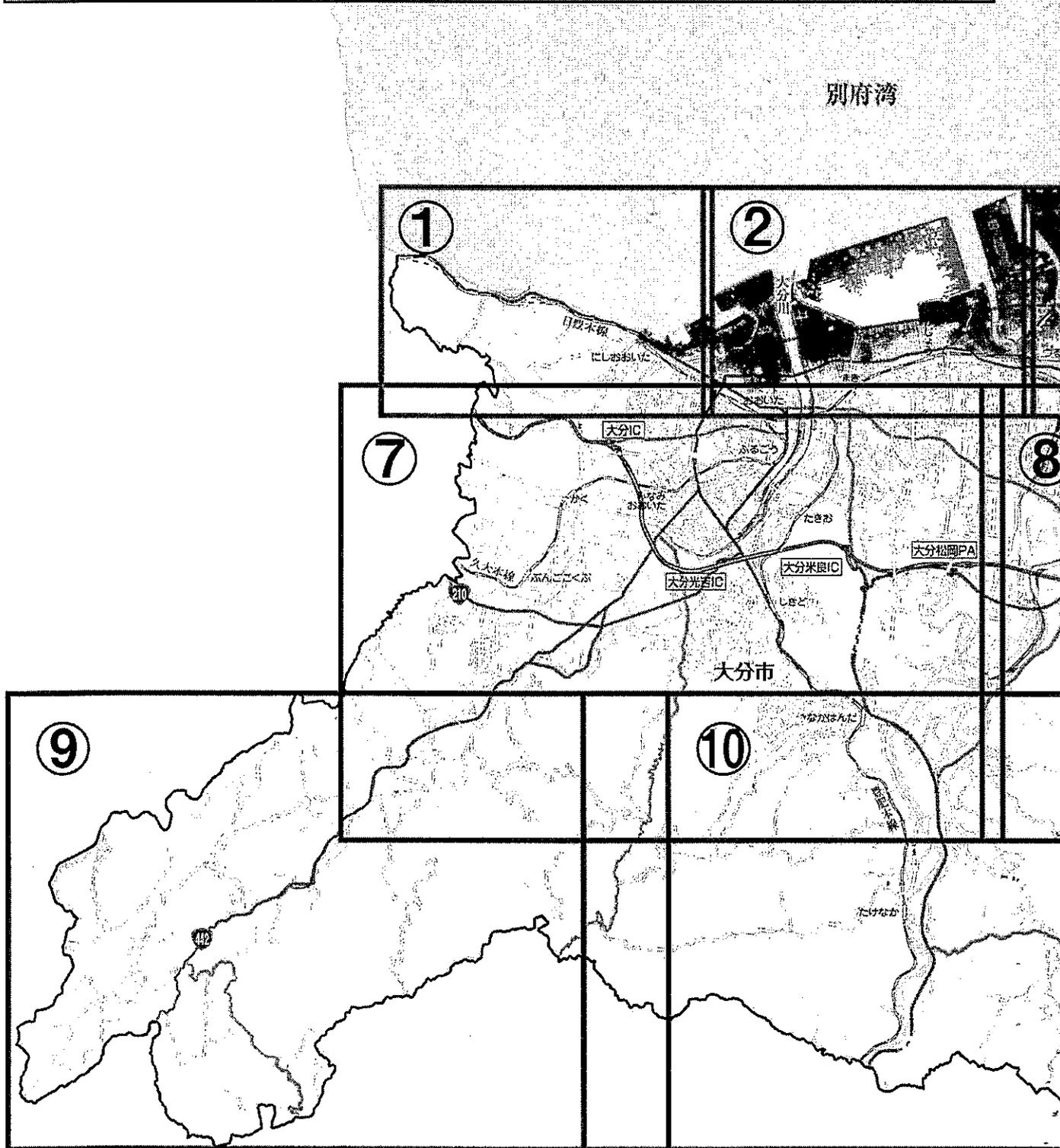
災害時の避難

応急手当

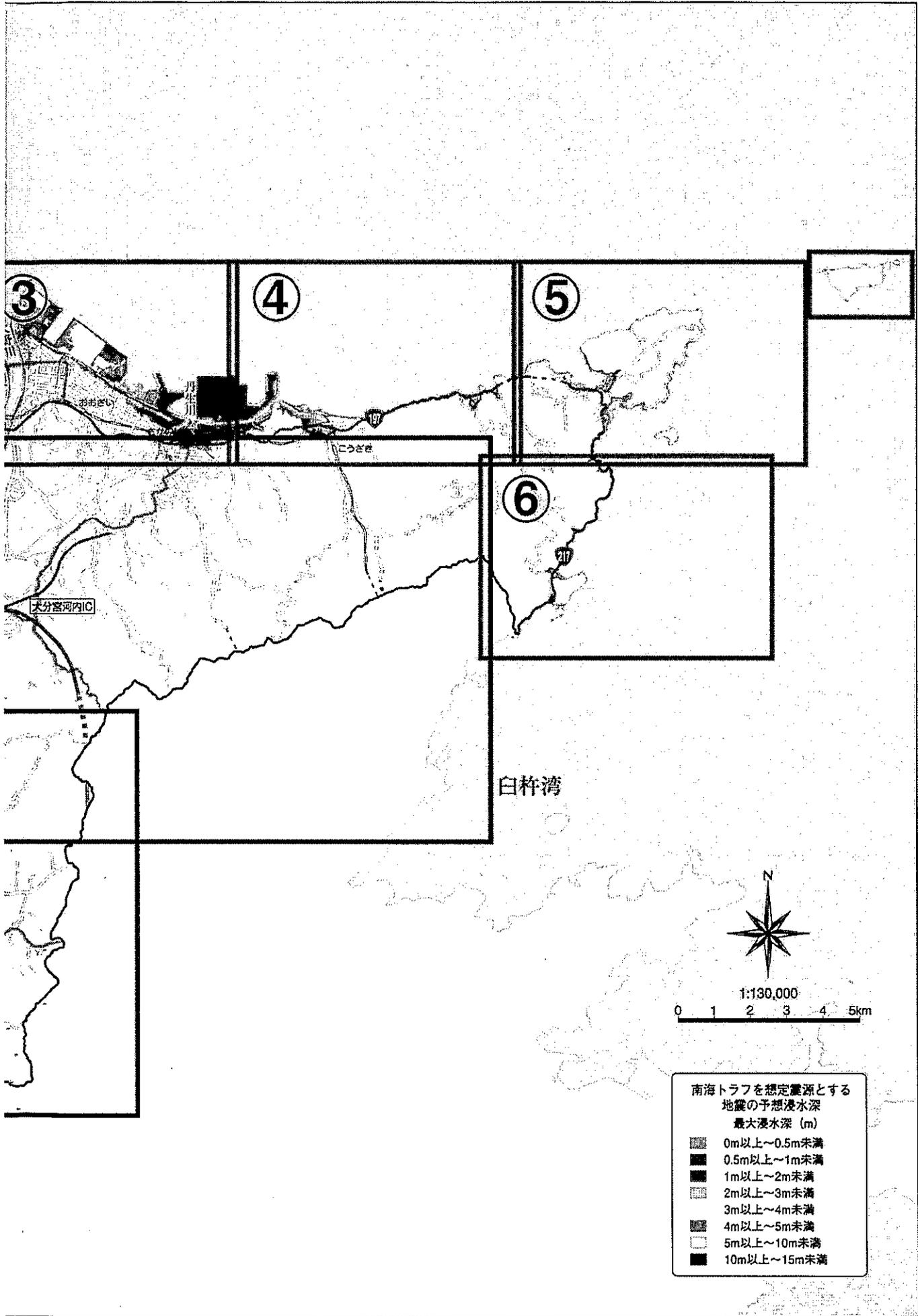
防災情報

チェックリスト

大分市津波・地震ハザードマップ全体図

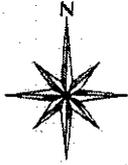


※ "大分市津波・地震ハザードマップ" は大分市都市計画図（平成17年5月）を基に作成しております。
※ "大分市津波・地震ハザードマップ" における"避難所"、"津波避難ビル"、"津波避難場所" は平成25年2月末現在の情報によるものです。



- 地震対策
- 津波対策
- ゆれやすさ・液状化危険度マップ
- 風水害対策
- 洪水ハザードマップ
- 火災対策
- 地域防災
- 放射線災害対策
- 災害時の避難
- 応急手当
- 防災情報
- チェックリスト

津波・地震ハザードマップ ①



1:20,000
0 500m



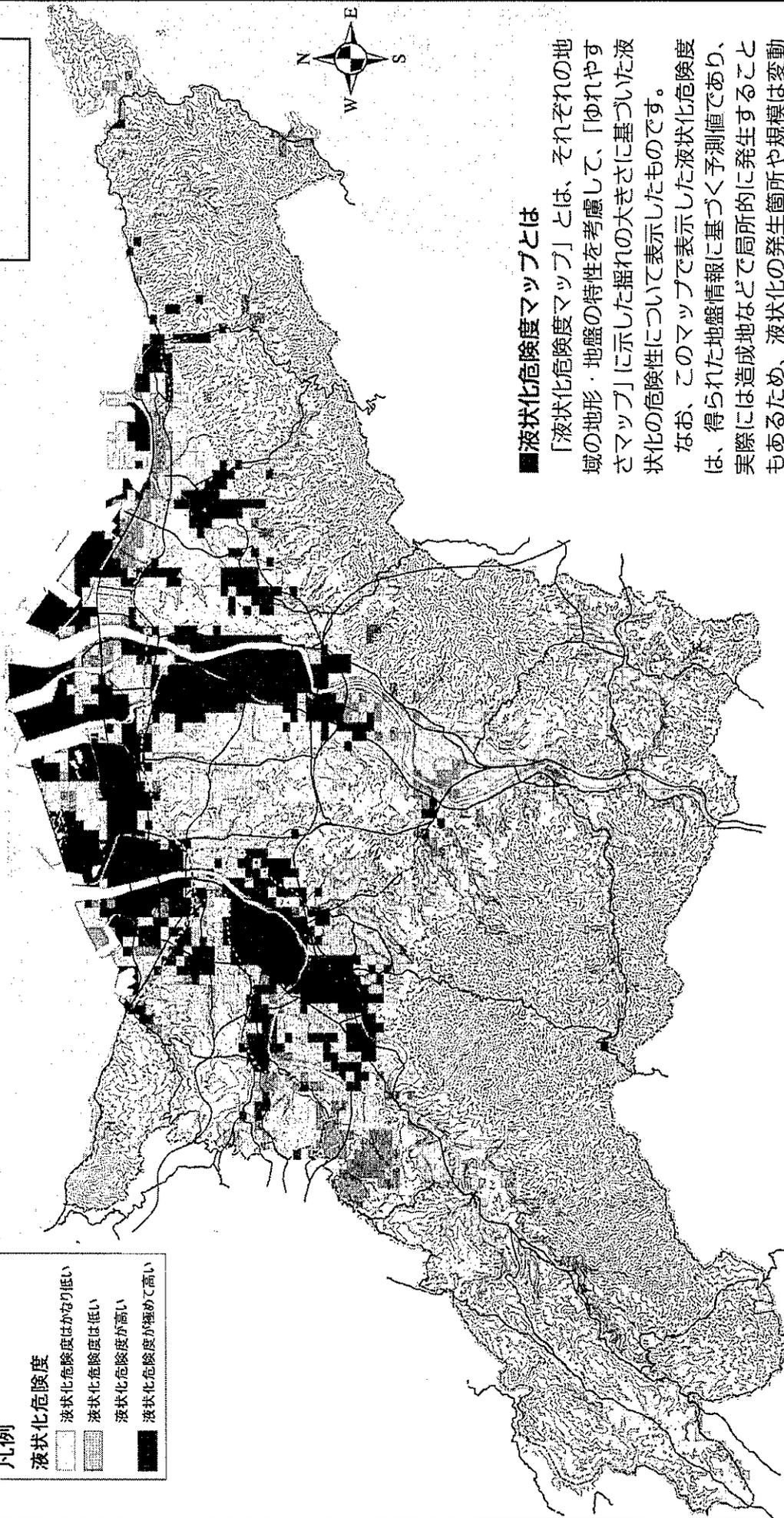
大分市 液状化危険度マップ



凡例

液状化危険度

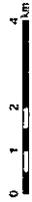
液状化危険度がかなり低い
液状化危険度が低い
液状化危険度が高い
液状化危険度が極めて高い



■液状化危険度マップとは

「液状化危険度マップ」とは、それぞれの地域の地形・地盤の特性を考慮して、「ゆれやすさマップ」に示した揺れの大きさに基づいた液状化の危険性について表示したものです。

なお、このマップで表示した液状化危険度は、得られた地盤情報に基づく予測値であり、実際には造成地などで局所的に発生することもあるため、液状化の発生箇所や規模は変動することがあります。



- 地震対策
- 津波対策
- 津波・地震
ハザードマップ
- ゆれやすさ
液状化危険度
マップ
- 風水害対策
- 洪水
ハザードマップ
- 火災対策
- 地域防災
- 放射線災害対策
- 災害時の避難
- 応急手当
- 防災情報
- チェックリスト

風水害に備えましょう

日本は梅雨前線や秋雨前線の活動、台風の影響などにより、全国各地で大雨が発生します。また、日本は全人口の約50%が洪水氾らん地域に住んでいます。風水害から大切な家族と財産を守るために、日ごろからしっかりと対策を立てて、風水害に備えましょう。

豪雨・台風が引き起こす災害

記録的な大雨をもたらした2005（平成17）年9月の台風14号。県内では1時間に20ミリ前後の雨が降り続き、9月4日から6日までの総雨量は、大分川・大野川流域の9つの雨量観測所で観測史上最高を記録しました。

その結果、乙津川の高田橋（大分市）では、水位が過去最高の3.54メートルとなり、堤防が壊れるおそれがある計画高水位を32センチ超えました。各地で土砂崩れや浸水が起き、負傷者4名、半壊4棟、床上浸水126棟、床下浸水375棟などの被害をもたらしました。

過去に大分市内に被害をもたらした主な風水害

台風来襲年月日	台風の経路(台風の号数)	市内の主な被害
1996年 8月13~14日	熊本市付近に上陸後、北東へ進み 県西部から北部を通過した(12号)	文教施設302万円(20施設)、農作物(4,375万円)、共同・非共同利用施設379万円(40施設)、 都市施設3,418万円(70箇所)、被害総額8,474万円
1997年 6月27~28日	長崎県西彼半島に上陸後、北東へ 進み県西部から北部を通過した(8号)	農道2,070万円(2箇所)、農作物69万円、農地100万円(1箇所)、林道560万円(5箇所)、 都市施設57万円(1箇所)、被害総額2,856万円
1997年 9月15~16日	枕崎市付近に上陸後、熊本県 から大分県を通過した(19号)	床上浸水100棟、床下浸水139棟、文教施設9,000万円(10施設)、共同・非共同利用施設 12,335万円(59箇所)、農作物17,257万円、農地2,770万円(27箇所)、林道880万円 (44箇所)、河川18,750万円、道路12,730万円、被害総額647,744万円
1998年 10月15~18日	枕崎市付近に上陸後、日向市付近 を通り日向灘に抜ける(10号)	床上浸水19棟、床下浸水73棟、下水道1,828万円(45施設)、共同利用施設6,631万円(97施設)、 農作物12,167万円、農地3,374万円(55箇所)、耕地2,417万円(1箇所)、林道13,089万円 (111箇所)、河川16,264万円(50箇所)、道路17,400万円(181箇所)、被害総額99,783万円
1999年 9月22~24日	熊本県北部に上陸後、福岡県、 大分県境を通過した(18号)	負傷者19名、半壊3棟、一部損壊11棟、文教施設4,500万円(169施設)、農作物32,935万円、 共同・非共同利用施設15,483万円(125施設)、道路4,790万円(195箇所)、 都市施設46,880万円(225箇所)、被害総額117,162万円
2004年 8月28~30日	鹿児島県串木野市付近に上陸、 北北東へ進み日田市付近を通り 周防灘に抜けた(16号)	半壊6棟、一部損壊41棟、床下1棟、公共文教施設280万円、農林水産業施設15,548万円、 公共土木施設2,196万円、その他公共施設2,804万円、農産被害3,276万円、 文化財被害170万円、被害総額24,274万円
2004年 9月5~7日	長崎市付近に上陸、北東進し瀬戸 を通り日本海に抜けた(18号)	負傷者3名、半壊8棟、一部損壊30棟、公共文教施設2,424万円、農林水産業施設9,337万円、 その他公共施設2,998万円、農産被害13,147万円、被害総額27,906万円
2004年 9月28~29日	鹿児島県串木野市付近に上陸後、 宮崎県北部から日向灘を抜け 高知県に再上陸した(21号)	全壊1棟、半壊1棟、一部損壊5棟、床上浸水1棟、床下浸水30棟、農林水産業施設7,385万円、 公共土木施設4,951万円、その他公共施設336万円、農産被害10,882万円、畜産被害48万円、 被害総額23,601万円
2005年 9月5~6日	屋久島の西海上から九州の西岸に沿い 天草付近を通過し長崎の諫早市付近に 上陸し、玄海灘に抜けた(14号)	負傷者4名、半壊4棟、一部損壊88棟、床上浸水126棟、床下浸水375棟、下水道施設370万円、下水道施設 21万円、公共文教施設371万円、社会教育施設4,605万円、文化財被害199万円、農作物被害23,075万円、 農林水産業施設32,463万円、土木関係被害21,193万円、その他被害14,019万円、被害総額96,316万円
2006年 8月17~19日	宮崎市付近に上陸、熊本市付近で 停滞後、福岡県を通過した(10号)	負傷者1名、床下浸水2棟、農林水産業施設5,687万円、公共土木施設1,473万円、 農産被害106万円、被害総額7,266万円
2006年 9月15~18日	東シナ海を北上し、佐世保付近に上陸後、 佐賀県、福岡県を通過した(13号)	負傷者2名、全壊1棟、一部損壊51棟、農林水産業施設447万円、農産被害7,276万円、 被害総額7,723万円
2007年 7月13~15日	大隅半島に上陸した後、日向灘へ 抜け、四国沖から太平洋沿岸を 東北東に進んだ(4号)	水道施設10万円(1箇所)、農作物被害722万円、農林水産業施設4,662万円(58箇所)、 土木関係被害1,725万円(39箇所)、その他の被害60万円、被害総額7,179万円
2007年 8月2~3日	宮崎県日向市付近に上陸し、 その後も北北西に進み、県下を 縦断して周防灘に抜けた(5号)	負傷者3名(重傷2、軽傷1)、一部損壊4棟、床下浸水14棟、下水道施設981万円(2施設)、 農作物被害803万円、農林水産業施設43,513万円(487箇所)、土木関係被害21,841万円 (159箇所)、被害総額67,138万円

集中豪雨から身を守りましょう

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は現状困難です。気象情報や起きている現象から危険レベルを判断し、行動することが重要になってきます。

集中豪雨の危険を知っておきましょう

短時間で危険な水位になる



注意報や警報が出ない雨でも災害が発生する



下水の排水能力を超える大雨



離れた場所の雨でも影響する



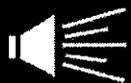
このような前兆を確認したら避難しよう！

- 空が真っ黒になり、雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する
- 冷たい風が吹き出したら注意する
- 川の水かさが増したり、濁ってきたらすぐに避難する
- 大粒の雨やひょうが降り出したら建物内へ避難する

風水害による避難の勧告・指示の方法

大分市では、市民の皆さまに対して、的確な避難を促すため、風水害による避難の勧告・指示を発令したときに、下記の信号パターンによりお知らせします。

防災サイレンの
信号パターン



● ——— 休止 5秒

● ——— 1分吹鳴

● 避難勧告等が発令された旨のアナウンスを流します

地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

防災情報

チェックリスト

土砂災害から身を守りましょう

土砂災害は、突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして生命や財産を奪ってしまいます。土砂災害の発生を予測するのは難しいものですが、前兆現象が見られる場合があります。身近に土砂災害の危険箇所があり、次のような現象を確認した場合は、早めに避難しましょう。

土砂災害から身を守りましょう

がけ崩れ・山崩れ

雨水がしみ込んで、やわらかくなった斜面が急に崩れ落ちます。日本で最も多い土砂災害で、人の住む家の近くでも突然起きるため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い災害です。

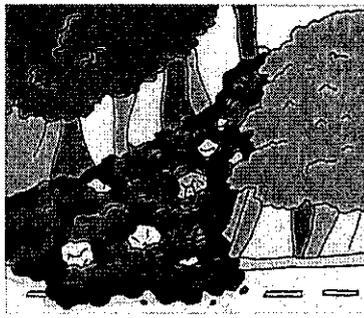


! こんな前兆現象に注意!

- がけからの水がにごる。
- 地下水やわき水が止まる。
- 斜面のひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- がけから音がする。
- 異様なにおいがする。

地すべり

地盤が弱い土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が、地下水の影響と重力でゆっくり下へ移動する現象です。ひとたび発生すると、家や道路、鉄道など広い範囲に被害を与えます。

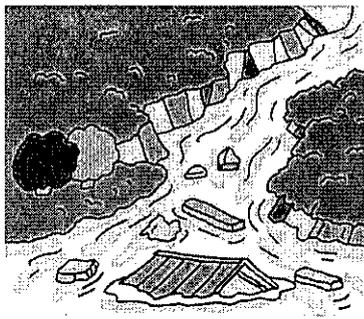


! こんな前兆現象に注意!

- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水がにごる。
- がけや斜面から水がふき出す。
- 家やよう壁に亀裂が入る。
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く。

土石流

長雨や集中豪雨などで、山腹や谷川の石や土砂がいきにく下流へ押し流されます。いきおいが強く、圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊していきます。



! こんな前兆現象に注意!

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の水がにごったり、流木がまざったりする。
- 腐った土のおいがする。

●土砂災害警戒情報を確認するには…

●土砂災害警戒区域及び特別警戒区域を確認するには…

大分県土砂災害情報インターネット提供システム
<http://sabo.pref.oita.jp/dosya/index.html>

・大分県大分土木事務所管理課：電話番号（直通）097-558-2143

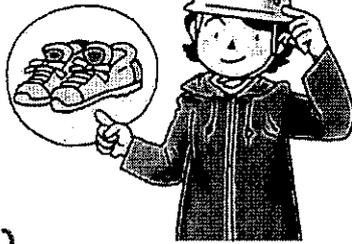
・大分市役所河川課：電話番号（直通）097-537-5632

※詳しい位置や規制の内容の確認は大分土木事務所管理課にお問い合わせください。

風水害からの安全避難のポイント

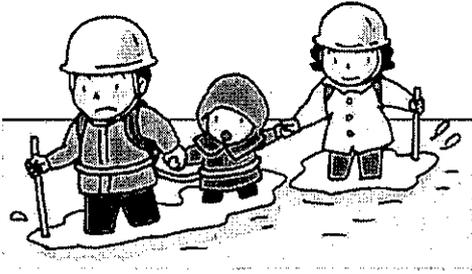
1 動きやすく、安全な服装で

ヘルメットで頭を保護し、靴はひもで締められる運動靴にする。裸足・長靴は厳禁。



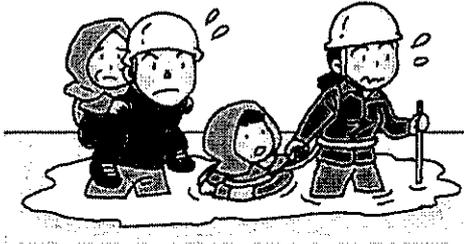
3 単独行動はしない

避難するときは2人以上で。流されないように、ロープで互いを結ぶ。



5 災害時要援護者に配慮を

高齢者や傷病者などは背負い、子どもには浮き輪などを着けて安全を確保する。



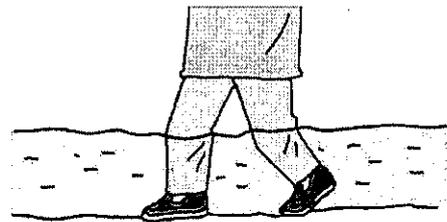
2 足元に注意

道路が冠水すると足元が見えにくくなり、側溝やマンホールに気づきにくくなる。長い棒などを杖代わりにして歩くと安全。



4 深さに注意

歩行可能な水深の目安は約50センチ。水の流が速い場合は20センチ程度でも危険になる。危ないと判断した場合は、無理をせず、高所で助けを待つ。



土砂災害から安全に避難するポイント

- 避難の際は、他の土砂災害危険区域は通らない。
- 土石流の場合、溪流を渡って対岸に逃げるのは厳禁。溪流からできるだけ離れ、流れとは直角方向に逃げる。
- がけ崩れは一瞬で起こるため、発生してから逃げるのは大変困難。緊急時には、がけの高さの2倍以上の距離に逃げたり、がけとは反対側の建物内の2階に移動したりするなどの対応で生命が助かる可能性は高くなる。
- 地すべりは比較的ゆっくりと発生し始めるので、様子を見て避難できる可能性はあるが、早め早めの対応が重要であることに変わりはない。



土砂災害危険情報

大雨などにより土砂災害発生の危険が高まったとき、大分県と気象庁が共同で「土砂災害警戒情報」を発表します。情報が出たら特に注意が必要です。

地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

防災情報

チェックリスト

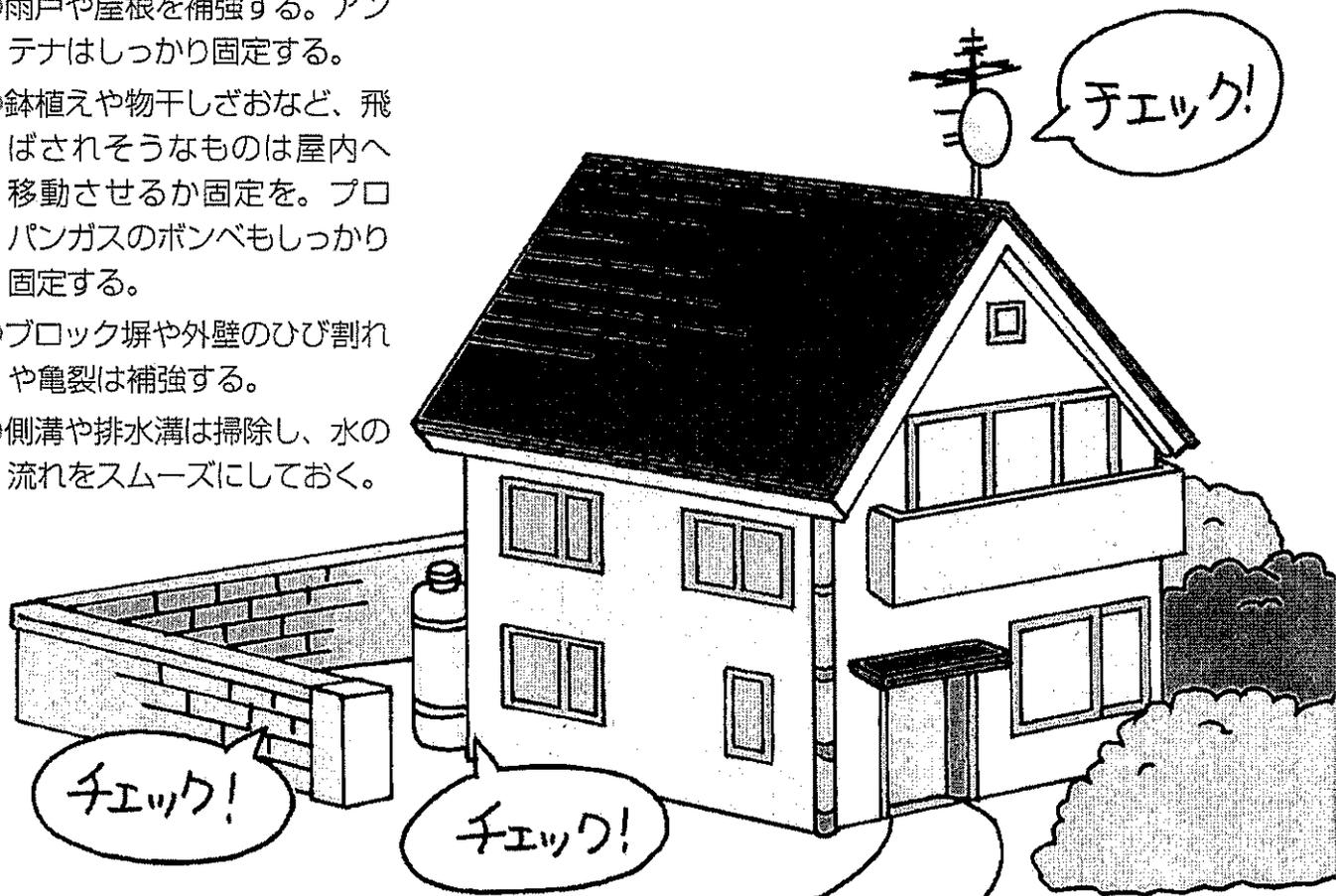
台風から身を守りましょう

台風が接近して災害発生のおそれが高まった場合には、台風情報とあわせて大雨、洪水、暴風、高波、高潮などの防災気象情報が発表されます。情報に注意し、早めに避難しましょう。

平常時の準備は

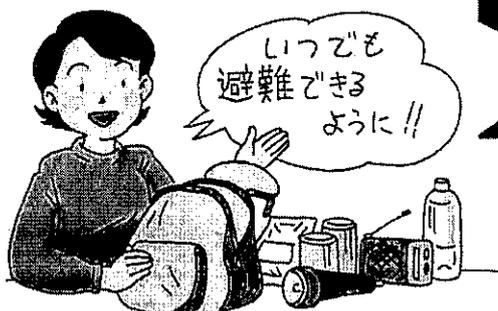
家のまわりを保全する

- 雨戸や屋根を補強する。アンテナはしっかり固定する。
- 鉢植えや物干しざおなど、飛ばされそうなものは屋内へ移動させるか固定を。プロパンガスのボンベもしっかり固定する。
- ブロック塀や外壁のひび割れや亀裂は補強する。
- 側溝や排水溝は掃除し、水の流れをスムーズにしておく。



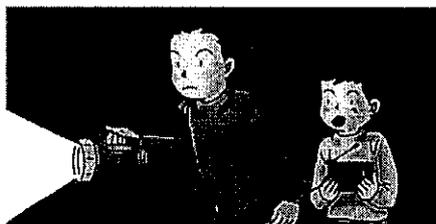
非常持出品の準備

避難勧告や指示が出たとき、すぐに動けるように、貴重品や非常持出品の準備を。



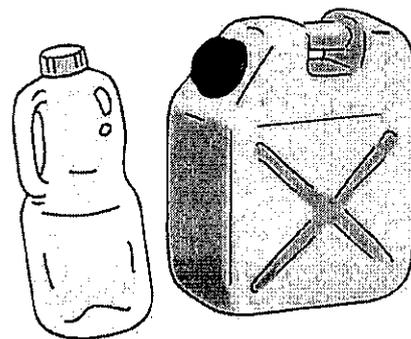
停電に備える

懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池を準備しておきましょう。



断水に備える

飲料水を確保する。また、浴槽に水を張るなどして、トイレなどの生活用水の確保も。



被害が心配されるときには

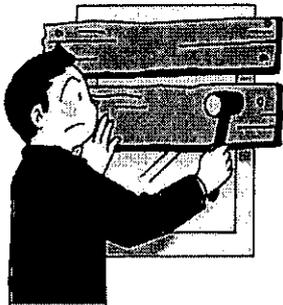
気象情報に注意する

テレビやラジオで発表される気象庁からの警報・注意報や、消防団、警察署、市からの情報に注意しましょう。気象台が発表する情報は、電話（177番）でも確認することができます。また、がけの亀裂や水位の変化など、身近な環境の変化にも注意する。



窓ガラスを補強する

外から板でふさいだり、×印にガムテープをはるなどして補強する。ガラスが飛ばないように、内側からカーテンを引く。



むやみに外出しない

台風が接近しているときや、豪雨の危険性があるときは、むやみに外出しないように。外出時には天気予報を確認し、少しでも危険を感じる場所には近づかないことです。



家財道具を移動させる

浸水が心配される場合は、家財道具や貴重品、生活用品、食料などを高い場所へ移動させておく。



安全な場所に避難する

被害が想定される場合には、事前に子どもや高齢者、病人などを安全な場所に避難させておきます。



高潮から身を守りましょう

●高潮発生 の3つの要因

① 気圧低下による海面の吸い上げ

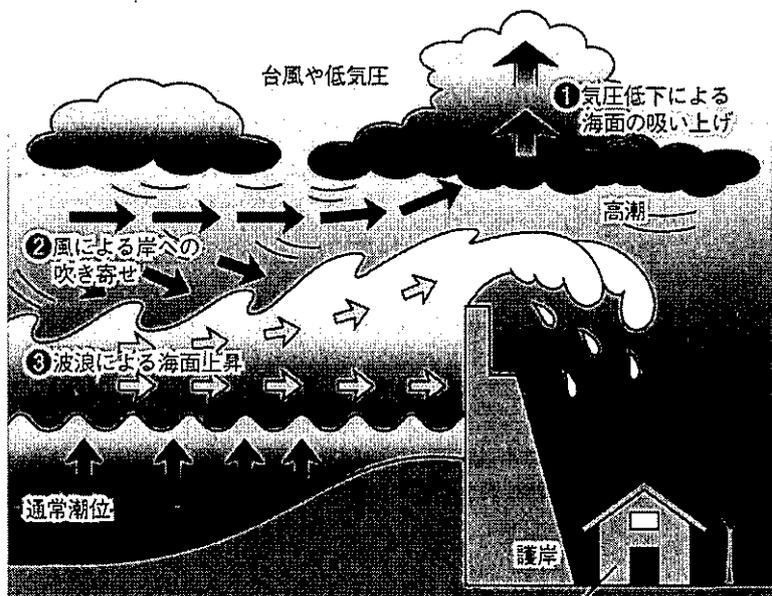
台風や低気圧の中心気圧は周辺より低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げる結果、海面が上昇します。

② 風による岸への吹き寄せ

台風による強い風が海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられて、海岸付近の海面が異常に上昇します。

③ 波浪による海面上昇

大きな波が海岸に向かって絶え間なく押し寄せると、沖に急速に戻ることができず、岸に近い場所に多量の海水がたまるようになり、海面が上昇します。波が大きいほど、海面の上昇も大きくなります。



ゼロメートル地帯
海岸近くのゼロメートル地帯は高潮による浸水の被害に要注意です。

地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

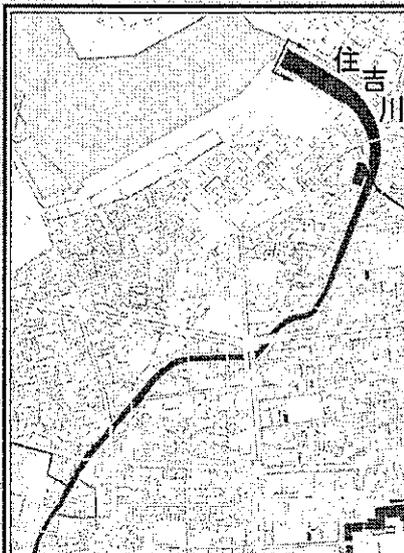
応急手当

防災情報

チェックリスト

洪水ハザードマップ

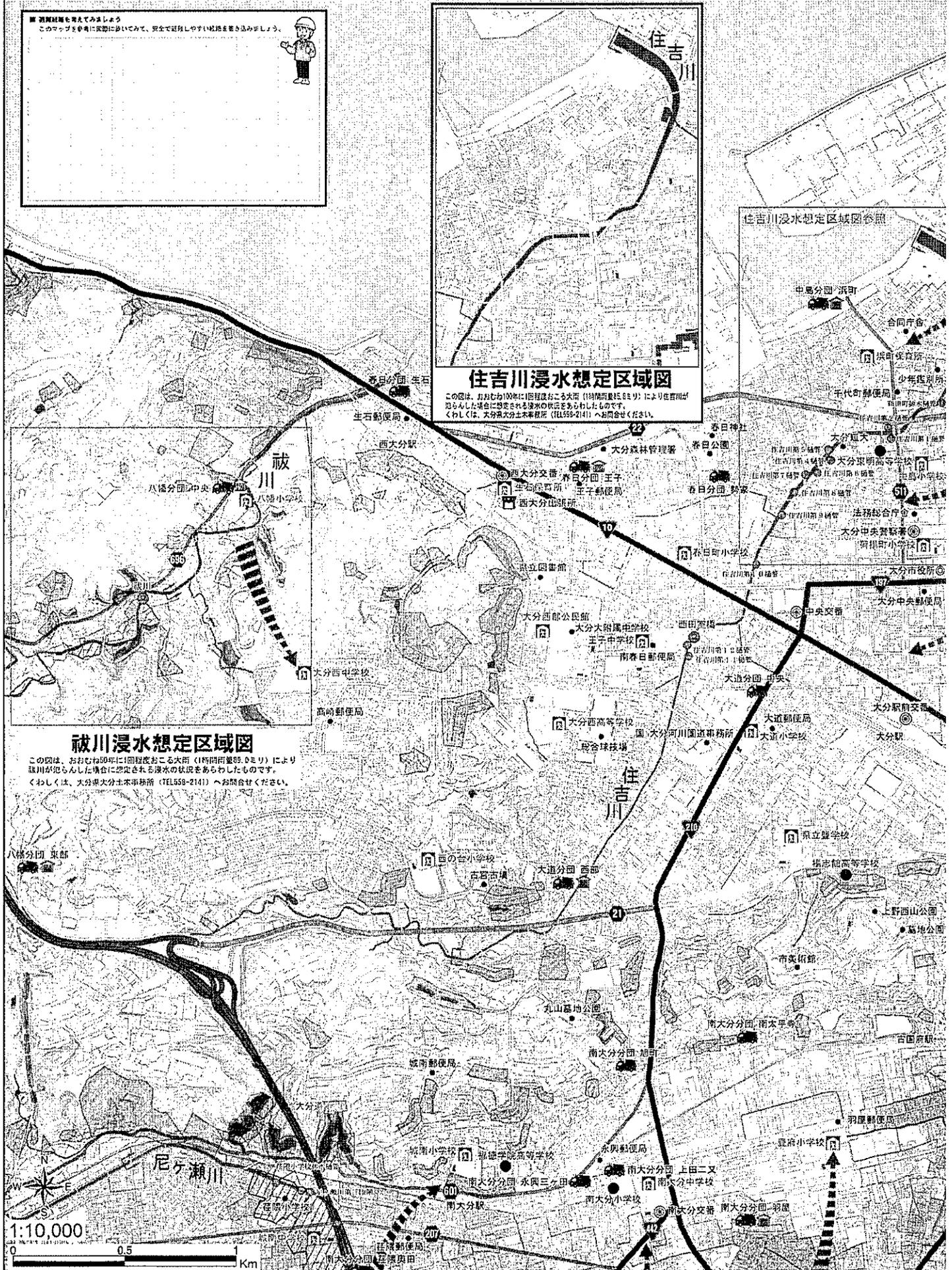
※ 避難経路を覚えておきましょう
このマップを参考に避難に歩いてみて、安全で近所しやすい経路を覚えておきましょう。



住吉川浸水想定区域図

この図は、おおむね100年に1回程度おこる大雨（1時間雨量55.9ミリ）により住吉川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を示したものです。
くわしくは、大分県大分土木事務所（TEL559-2141）へお問合せください。

住吉川浸水想定区域図参照



祓川浸水想定区域図

この図は、おおむね50年に1回程度おこる大雨（1時間雨量89.0ミリ）により祓川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を示したものです。
くわしくは、大分県大分土木事務所（TEL559-2141）へお問合せください。

1:10,000
0 0.5 Km

● この地図は大分市都市計画図（平成12年）を基に作成しています。
● 河川の浸水想定区域や土砂災害等の危険箇所等の正確な位置については、市関係機関へお問合せください。（国が管理する阿利川は、国土交通省大分河川国道事務所TEL544-4167、県が管理する阿利川は、大分県大分土木事務所TEL559-2141、土砂災害に関するものは、

地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

風水害対策

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

防災情報

チェックリスト

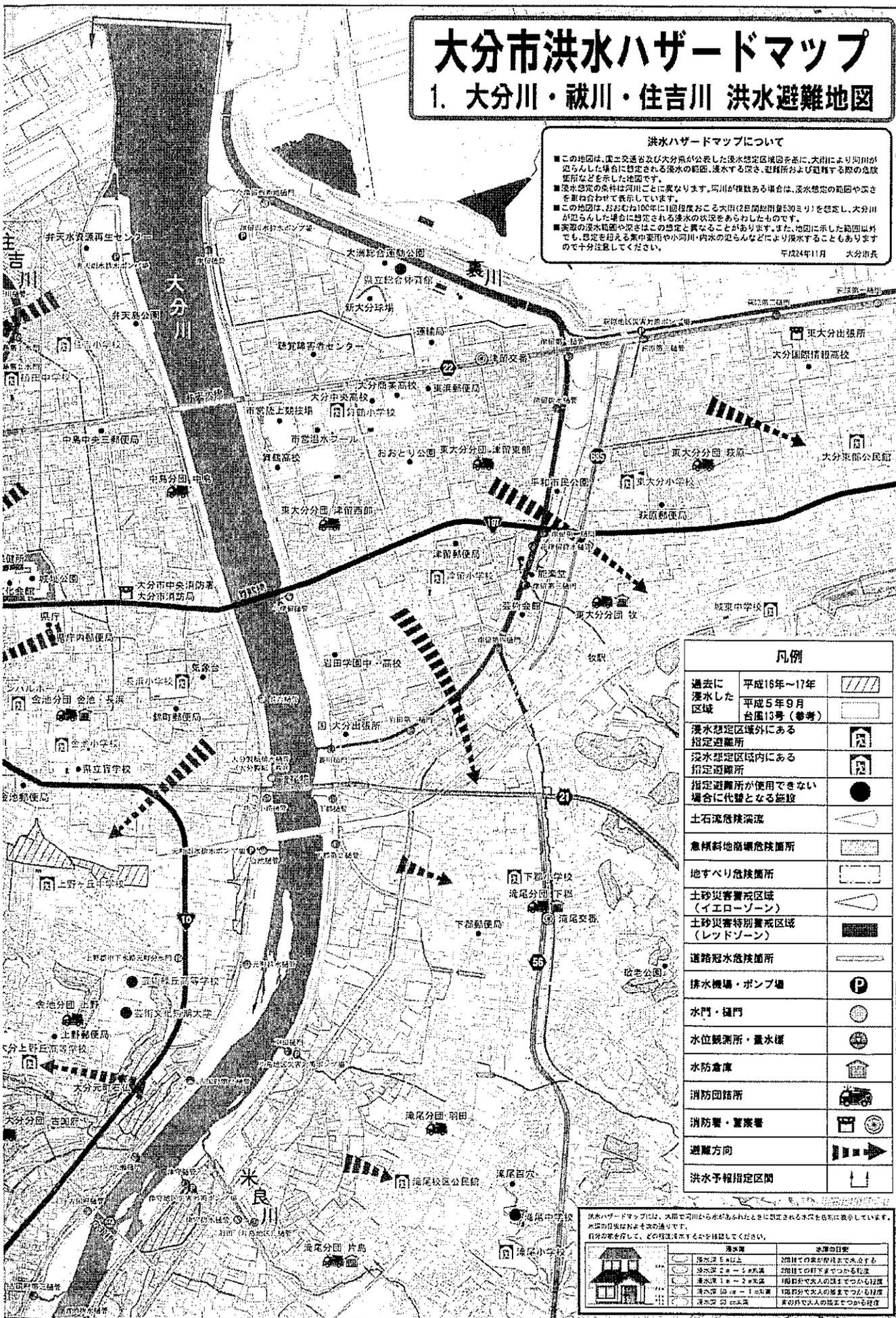
大分市洪水ハザードマップ

1. 大分川・祓川・住吉川 洪水避難地図

洪水ハザードマップについて

- この地図は、国土交通省及び大分県が公表した浸水想定区域図を基に、大分川により河川が遡上した場合に想定される浸水の範囲、浸水する深さ、避難所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。
- 浸水想定は河川ごとに異なります。河川が複数ある場合は、浸水想定範囲や深さを重ね合わせて表示しています。
- この地図は、おおむね100年に1回程度おこる大雨(2日間総雨量50ミリ)を想定し、大分川が遡上した場合に想定される浸水の状況を示したものです。
- 実際の浸水範囲や深さはこの想定と異なることがあります。また、地図に示した範囲以外でも、想定を超える集中豪雨や小川・内水の遡上などにより浸水することもありますので十分ご注意ください。

平成24年11月 大分県



凡例		
過去に浸水した区域	平成16年~17年 平成5年9月 台風13号(参考)	
浸水想定区域外にある指定避難所		
浸水想定区域内にある指定避難所		
指定避難所が使用できない場合に代替となる施設		
土石流危険渓流		
危険斜面崩壊危険箇所		
地すべり危険箇所		
土砂災害警戒区域(イエローゾーン)		
土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)		
道路冠水危険箇所		
排水機場・ポンプ場		
水門・樋門		
水位観測所・量水堰		
水防倉庫		
消防団詰所		
消防署・警察署		
避難方向		
洪水予報指定区間		

洪水ハザードマップには、大雨で河川から水があふれたときに想定される浸水の色も表示しています。水防の目安は以下の通りです。自分の家を見て、どの程度浸水するかを確認してください。

浸水深	水防の目安
浸水深 0.5m以上	2階建ての建物が浸水する
浸水深 0.3~0.5m程度	2階建ての軒下までつかる程度
浸水深 0.1~0.3m程度	1階建ての人の頭までつかる程度
浸水深 0.1m以下	1階建ての人の膝までつかる程度
浸水深 0.05m程度	車の外で人の膝までつかる程度

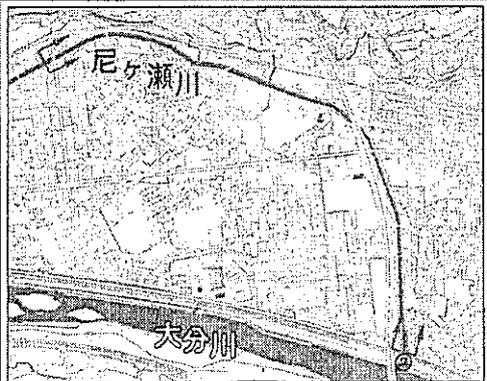
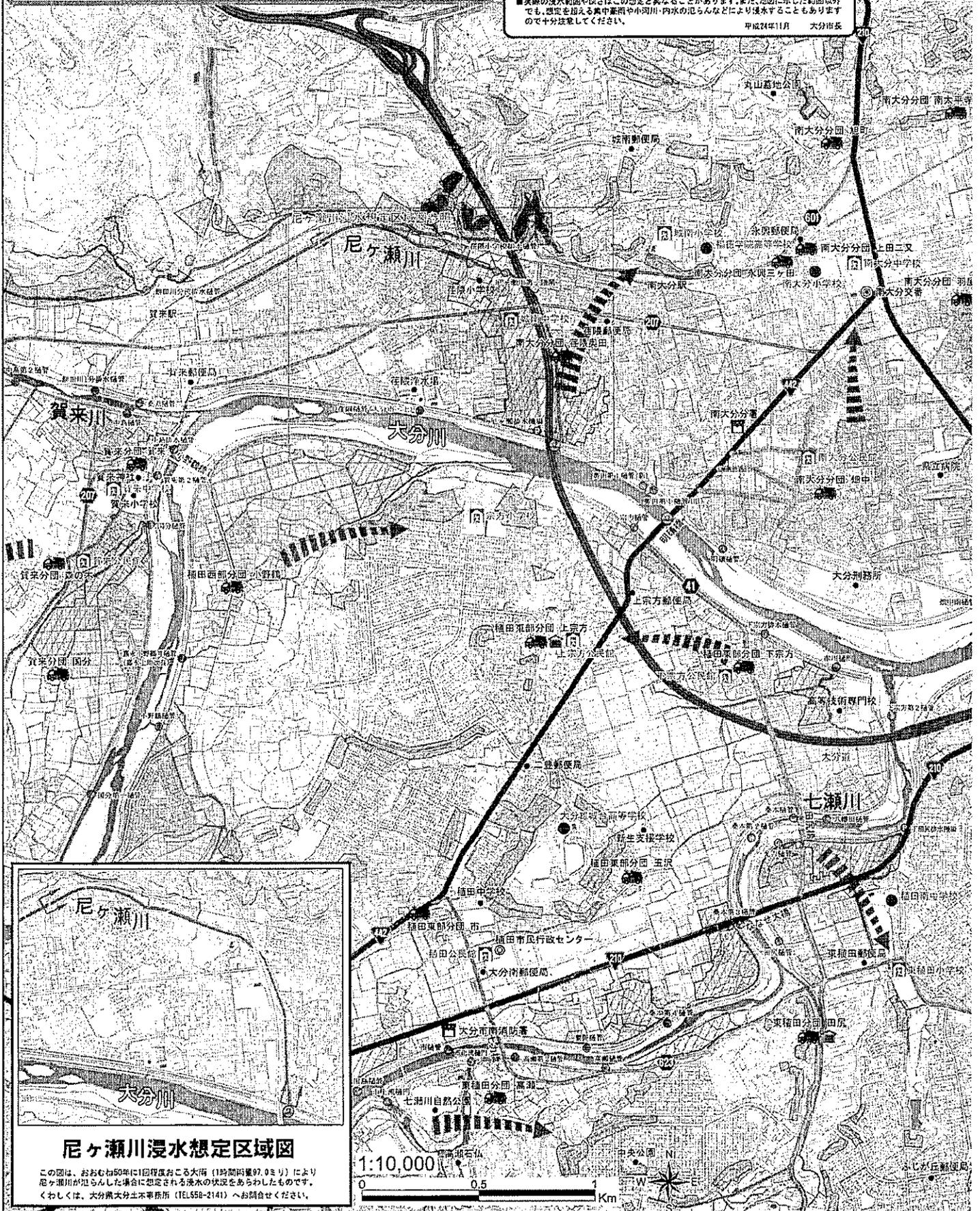
大分市洪水ハザードマップ

2. 大分川・米良川・尼ヶ瀬川・七瀬川 洪水避難地図

洪水ハザードマップについて

- この地図は、国土交通省及び大分県が公表した浸水想定区域図を基に、大雨により河川が氾らんした場合に想定される浸水の範囲、浸水する深さ、道路所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。
- 浸水想定は河川ごとに異なり、河川が複数ある場合は、浸水想定範囲や深さを重ね合わせて表示しています。
- この地図は、おおむね100年に1回程度おこる大雨(2日間総雨量50ミリ)を想定し、大分川・七瀬川が氾らんした場合に想定される浸水の状況を示したものです。
- 実際の浸水範囲や深さはこの想定と異なることがあります。また、地図に示した範囲以外でも、想定を超える集中豪雨や小河川・内水の氾らんにより浸水することもありますので十分注意してください。

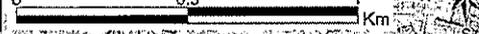
平成24年11月 大分市長



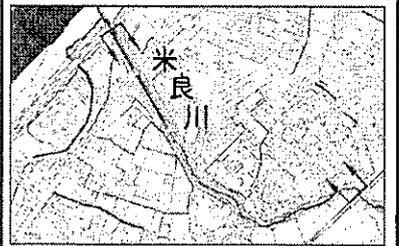
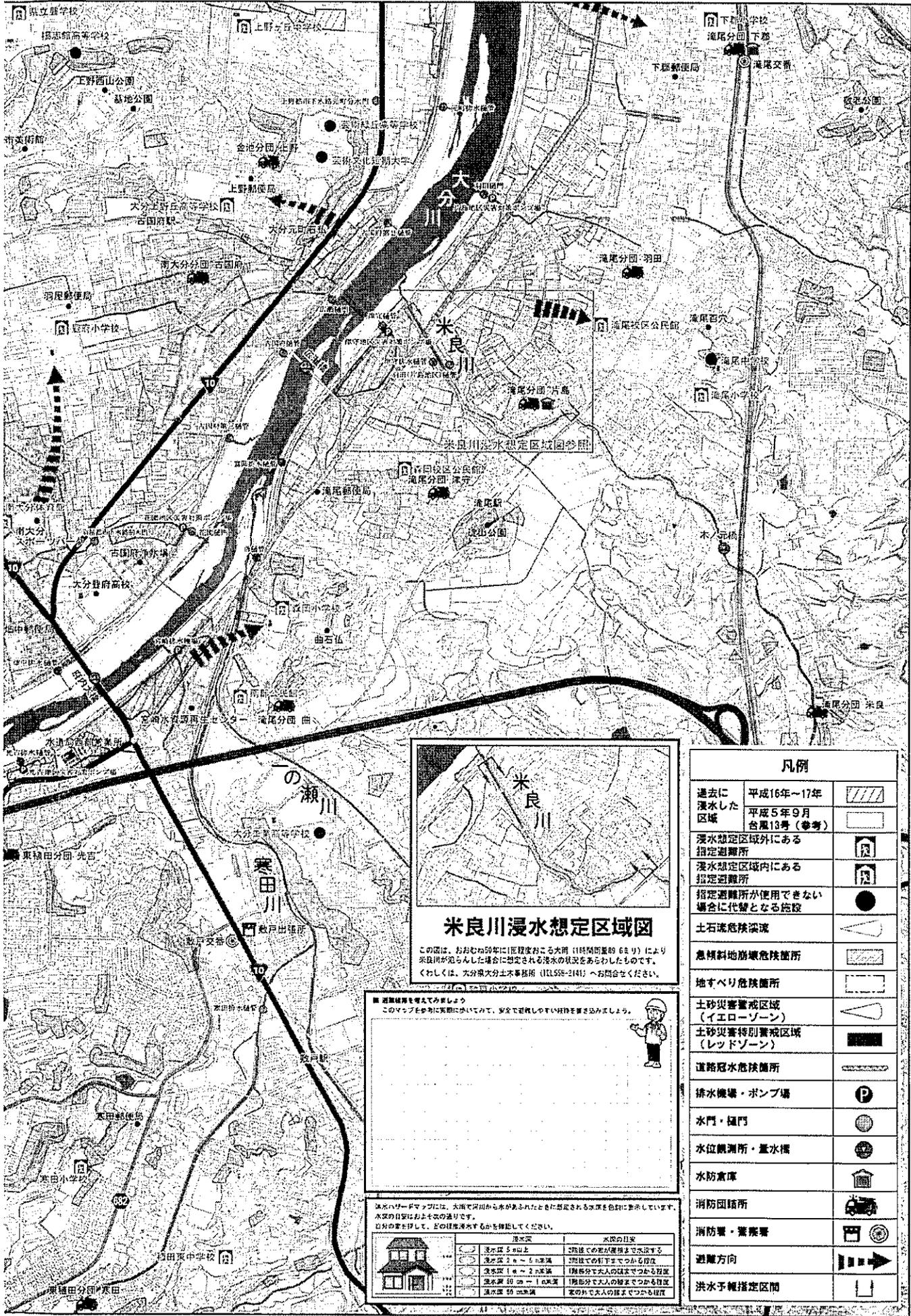
尼ヶ瀬川浸水想定区域図

この図は、おおむね50年に1回程度おこる大雨(1時間雨量97.0ミリ)により尼ヶ瀬川が氾らんした場合に想定される浸水の状況を示したものです。くわしくは、大分県大分土木事務所(TEL.568-2141)へお問合せください。

1:10,000



●この地図は大分市都市計画図(平成12年)を基に作成しています。
 ●河川の浸水想定区域や砂防工事の危険箇所の正確な位置については、各関係機関へお問合せください。(図が管理する河川は、国土交通省大分河川国庫事務所TEL.644-4167、県が管理する河川は、大分県大分土木事務所TEL.568-2141、土砂災害に関するものは、



米良川浸水想定区域図

この図は、おおむね50年に1回程度おこる水害（1時間雨量約68ミリ）により米良川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を示したものです。
 くわしくは、大分県大分土木事務所（TEL538-2141）へお問い合わせください。

避難経路を調べておきましょう
 このマップを参考に実際に歩いてみて、安全で避難しやすい経路を確かめましょう。

洪水ハザードマップには、大雨で河川から水があふれたときに想定される水深を色別に表示しています。水深の目安はおおむね次の通りです。自分の家を持って、どの程度浸水するかも確認してください。

水深	水没の目安
浸水深 5cm以上	2階建ての壁が浸水して水没する
浸水深 20cm～50cm未満	2階建ての軒下まで水没する
浸水深 10cm～20cm未満	1階建ての大人の膝まで水没する
浸水深 50cm～100cm未満	1階建ての大人の胸まで水没する
浸水深 90cm未満	家の中で大人の膝まで水没する

凡例		
過去に浸水した区域	平成16年～17年 平成5年9月 台風13号（参考）	
浸水想定区域外にある指定避難所		
浸水想定区域内にある指定避難所		
指定避難所が使用できない場合に代替となる施設		
土石流危険渓流		
急傾斜地崩壊危険箇所		
地すべり危険箇所		
土砂災害警戒区域（イエローゾーン）		
土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）		
道路冠水危険箇所		
排水機場・ポンプ場		
水門・樋門		
水位観測所・量水橋		
水防倉庫		
消防団詰所		
消防署・警察署		
避難方向		
洪水予報指定区間		

- 地震対策
- 津波対策
- 津波・地震ハザードマップ
- ゆれやすさ・液状化危険度マップ
- 風水害対策
- 火災対策
- 地域防災
- 放射線災害対策
- 災害時の避難
- 応急手当
- 防災情報
- チェックリスト

大分市洪水ハザードマップ

4. 大分川・七瀬川 洪水避難地図

洪水ハザードマップについて

- この地図は、国土交通省及び大分県が公表した洪水想定区域図を基に、大分川・七瀬川が氾濫した場合に想定される洪水の範囲、浸水する高さ、避難所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。
- 洪水想定区域の表示は河川ごとに異なります。河川が異なる場合は、洪水想定区域の範囲や浸水高さをそれぞれ表示しています。
- この地図は、おおいた100年に国定河川である大分川(日田川)の氾濫を想定し、大分川・七瀬川の洪水範囲、浸水高さを想定し、浸水する高さ、避難所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。また、この地図は、大分川・七瀬川の洪水範囲、浸水高さを想定し、浸水する高さ、避難所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。

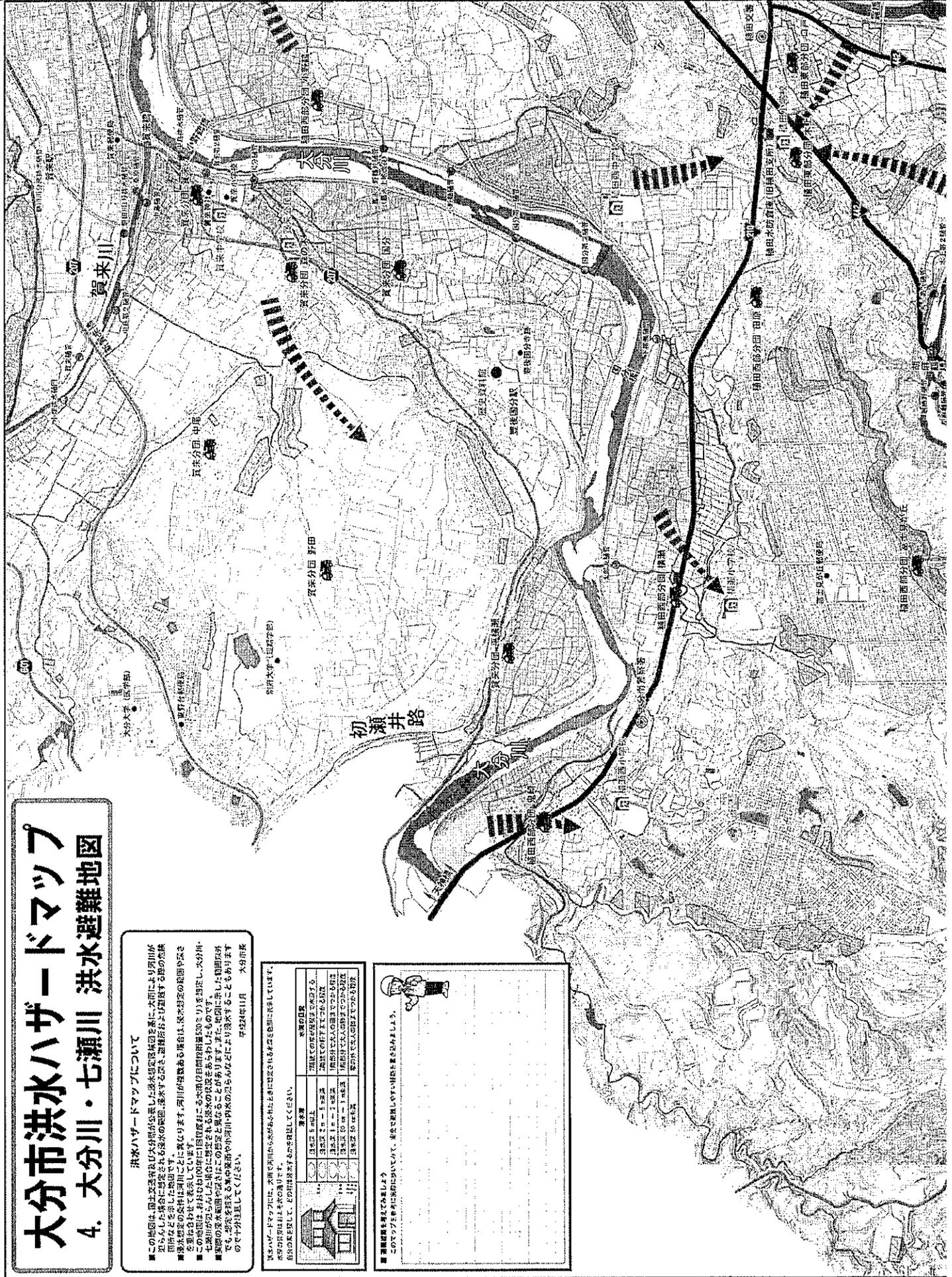
平成24年11月 大分市長

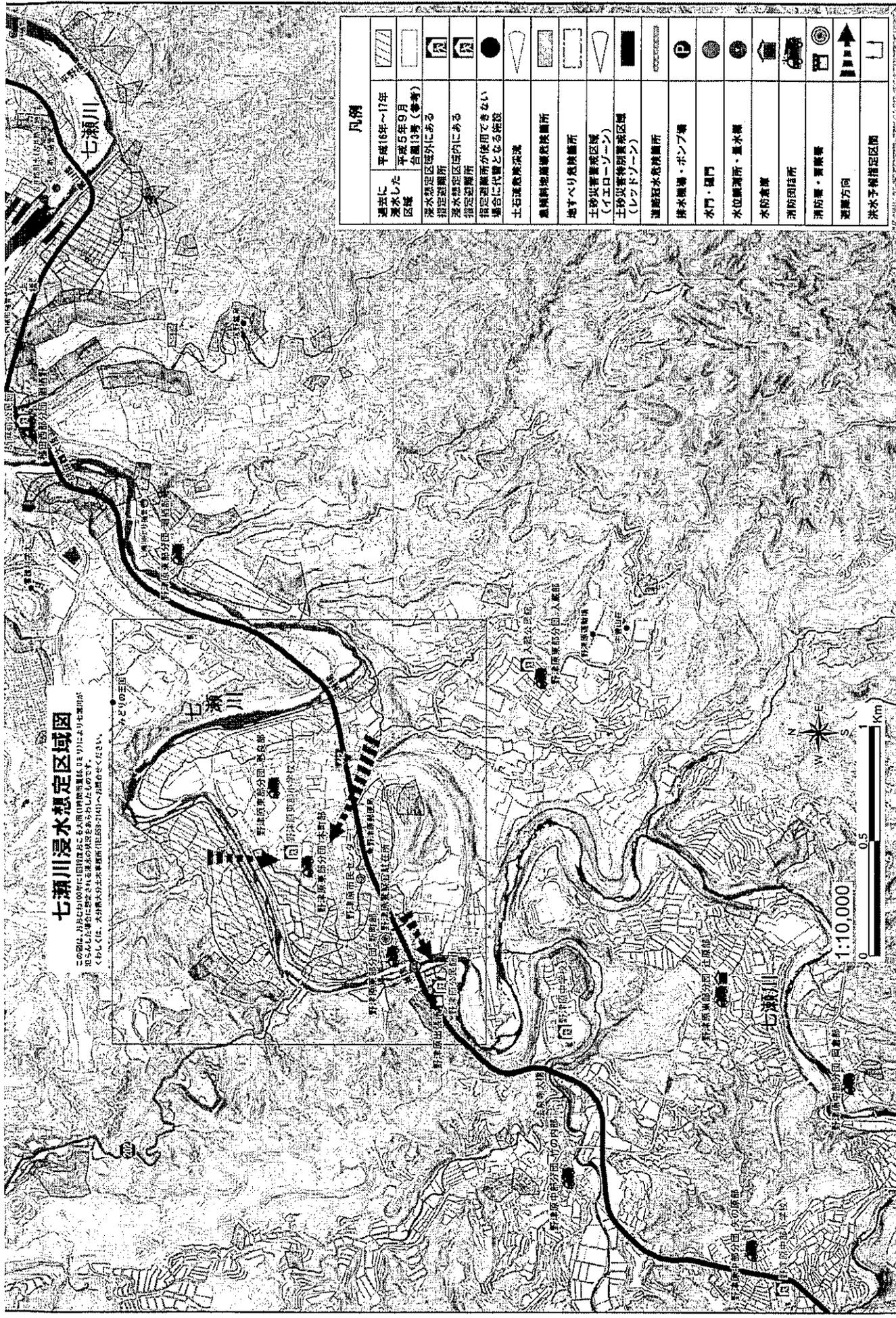
このハザードマップには、浸水想定区域図を基に、大分川・七瀬川が氾濫した場合に想定される洪水の範囲、浸水する高さ、避難所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。

浸水の高さ	浸水の範囲	浸水の範囲
1.5m以上	1.5m以上	1.5m以上
1.0m以上	1.0m以上	1.0m以上
0.5m以上	0.5m以上	0.5m以上
0.2m以上	0.2m以上	0.2m以上
0.1m以上	0.1m以上	0.1m以上

このハザードマップは、国土交通省及び大分県が公表した洪水想定区域図を基に、大分川・七瀬川が氾濫した場合に想定される洪水の範囲、浸水する高さ、避難所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。

このハザードマップは、国土交通省及び大分県が公表した洪水想定区域図を基に、大分川・七瀬川が氾濫した場合に想定される洪水の範囲、浸水する高さ、避難所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。





七瀬川浸水想定区域図

この図は、平成17年(2005年)に国土交通省(国土院)が実施した「河川浸水想定区域図」に基づき作成されたもので、浸水想定区域(浸水想定区域)を示しています。浸水想定区域は、河川の浸水想定区域(浸水想定区域)を示しています。浸水想定区域は、河川の浸水想定区域(浸水想定区域)を示しています。

凡例	
過去に浸水した区域	////
平成16年～17年	□
平成15年9月	□
平成5年9月(参考)	□
台閥13号(参考)	□
浸水想定区域外にある指定避難所	●
浸水想定区域内にある指定避難所	●
指定避難所が使用できない場合に代替となる施設	●
土石流危険渓流	▲
急傾斜地崩壊危険箇所	■
地すべり危険箇所	■
土砂災害警戒区域(イエローゾーン)	■
土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)	■
遊歩道水危険箇所	■
降水機場・ポンプ場	●
水門・閘門	●
水位観測所・量水堰	●
水の倉庫	■
消防団詰所	■
消防署・警察署	■
避難場所	■
浸水想定区域	■

この図は、国土交通省(国土院)が実施した「河川浸水想定区域図」に基づき作成されたもので、浸水想定区域(浸水想定区域)を示しています。浸水想定区域は、河川の浸水想定区域(浸水想定区域)を示しています。浸水想定区域は、河川の浸水想定区域(浸水想定区域)を示しています。

地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液化化危険度
マップ

風水害対策

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

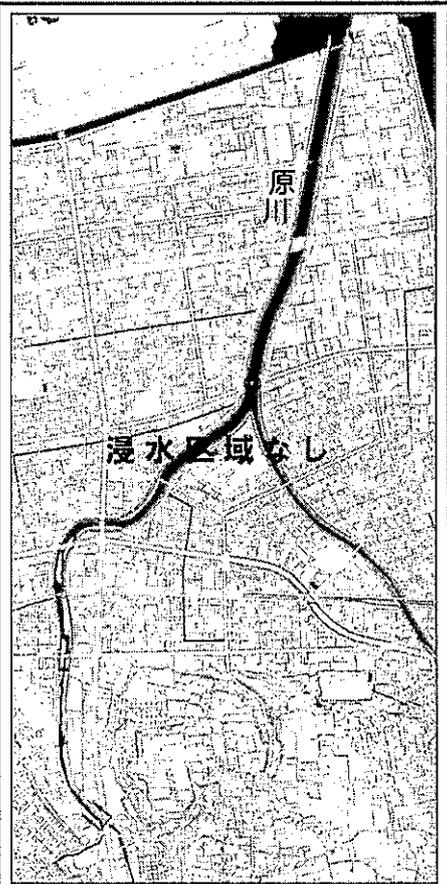
応急手当

防災情報

チェックリスト

洪水ハザードマップ

凡例		
過去に 浸水した 区域	平成16年~17年 平成5年9月 台風13号(参考)	
浸水想定区域外にある 指定避難所		
浸水想定区域内にある 指定避難所		
指定避難所が使用できない 場合に代替となる施設		
土石流危険渓流		
急傾斜地崩壊危険箇所		
地すべり危険箇所		
土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)		
土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)		
道路冠水危険箇所		
排水機場・ポンプ場		
水門・樋門		
水位観測所・量水堰		
水防倉庫		
消防団詰所		
消防署・警察署		
避難方向		
洪水予報指定区間		



原川浸水想定区域図

この図は、おおむね50年に1回程度おこる大雨(1時間雨量77.0ミリ)により原川が溢らんした場合に想定される浸水の状況をあらわしたものです。
くわしくは、大分県大分土木事務所(TEL558-2141)へお問合せください。



今堤川浸水想定区域図

この図は、おおむね50年に1回程度おこる大雨(1時間雨量74.5ミリ)により今堤川が溢らんした場合に想定される浸水の状況をあらわしたものです。
くわしくは、大分県大分土木事務所(TEL558-2141)へお問合せください。



●この地図は大分市都市計画図(平成12年)を基に作成しています。
●原川の浸水想定区域や土砂災害等の危険箇所の正確な位置については、各関係機関へお問合せください。(国が管理する河川は、国土交通省大分河川国道事務所TEL544-4167、県が管理する河川は、大分県大分土木事務所TEL358-2141、土砂災害に関するものは、大分県防災課TEL558-2141へお問合せください。)

- 地震対策
- 津波対策
- 津波・地震ハザードマップ
- ゆれやすさ・液状化危険度マップ
- 風水害対策
- 火災対策
- 地域防災
- 放射線災害対策
- 災害時の避難
- 応急手当
- 防災情報
- チェックリスト

大分市洪水ハザードマップ

5. 大野川・乙津川・原川・今堤川 洪水避難地図



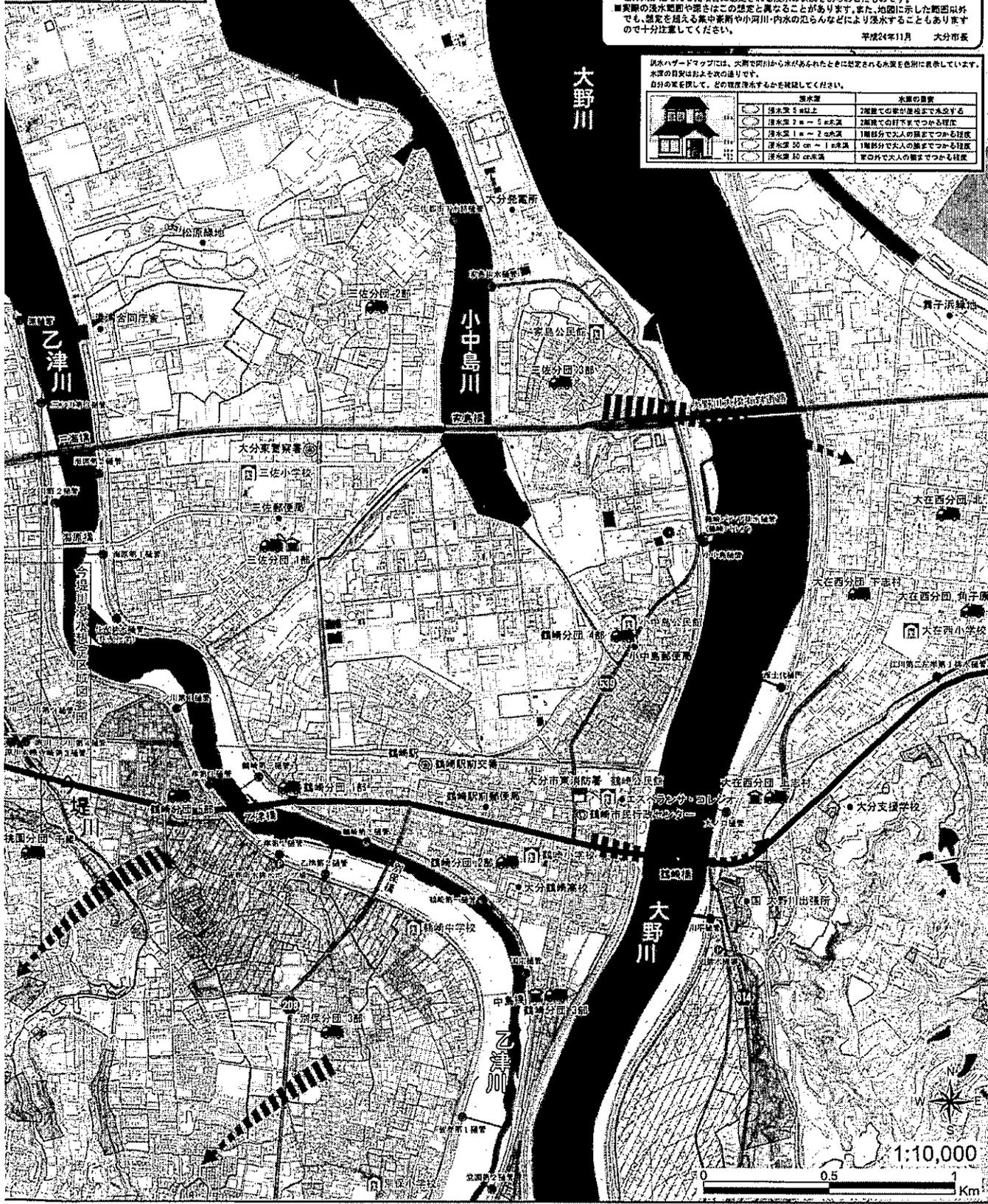
洪水ハザードマップについて

- この地図は、国土交通省及び大分県が公表した洪水想定区域図を基に、大雨により河川が氾らんした場合に想定される洪水の範囲、浸水する高さ、避難所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。
- 洪水想定の高さは河川ごとに異なります。河川が複数ある場合は、洪水想定の高さとを合わせて表示しています。
- この地図は、おおむね100年に1回程度おこる大雨(2日間総雨量465ミリ)を想定し、大野川・乙津川が氾らんした場合に想定される洪水の状況をあらわしたものです。
- 実際の洪水範囲や高さはこの想定と異なることがあります。また、地図に示した範囲以外でも、想定を超える集中豪雨や小野川・内水の氾らんなどにより浸水することもありますので十分注意してください。

平成24年11月 大分市長

洪水ハザードマップには、大雨で河川から水があふれたときに想定される浸水の色別に表しています。水深の目安はおよそ次の通りです。自分の家は浸水するかを確認してください。

浸水深	水深の目安
浸水深 3m以上	2階建ての家が浸水して水没する
浸水深 2m～3m未満	2階建ての軒下までつかぬ程度
浸水深 1m～2m未満	1階建てで大人の腰までつかぬ程度
浸水深 50cm～1m未満	1階建てで大人の膝までつかぬ程度
浸水深 30cm未満	室内で大人の膝までつかぬ程度



大分市洪水ハザードマップ

9. 小猫川・志生木川 洪水避難地図

洪水ハザードマップについて

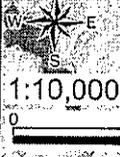
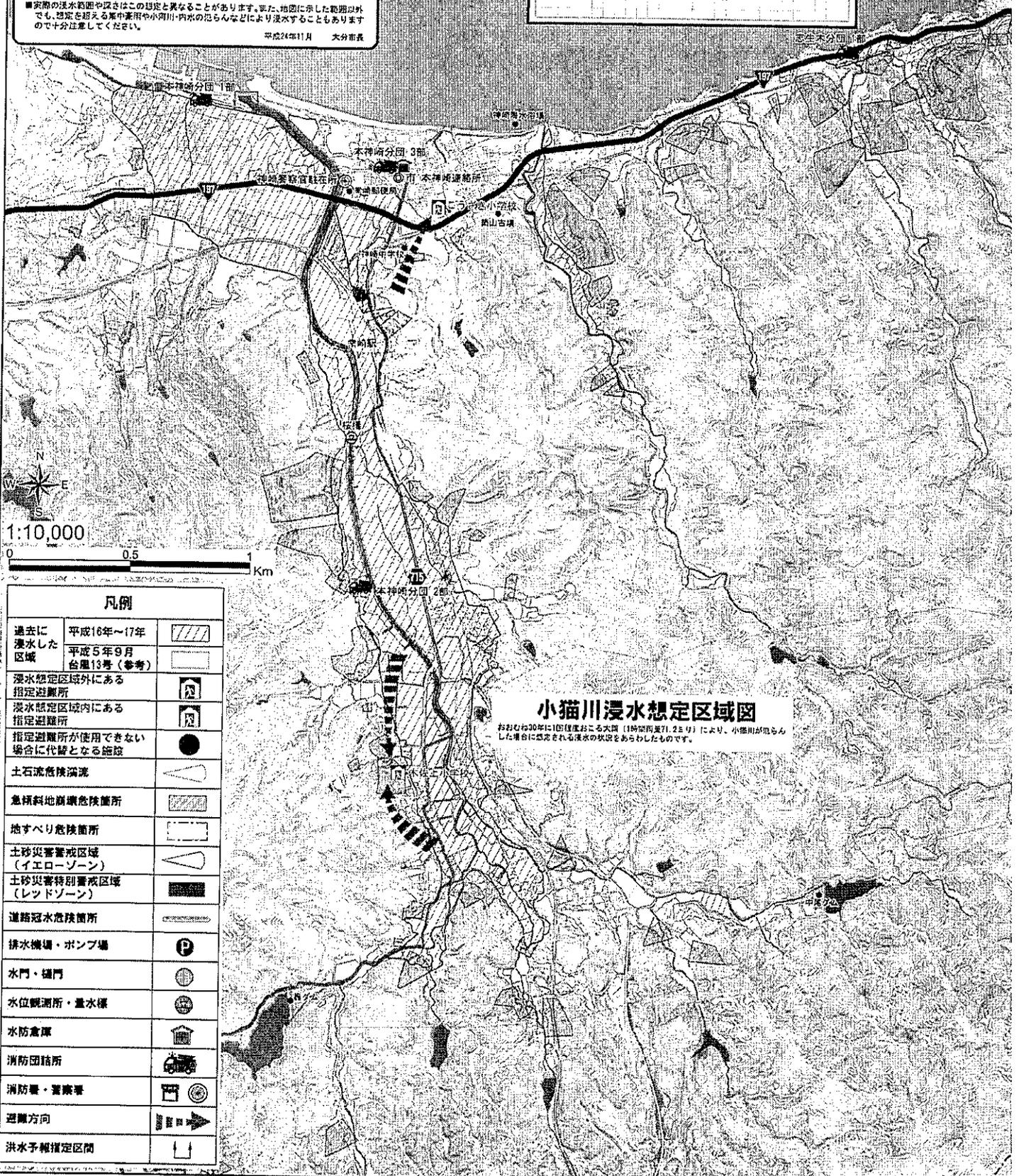
- この地図は、大分県が公表した浸水想定区域図を基に、大雨により河川が氾濫した場合に想定される浸水の範囲、浸水する深さ、避難所および避難する際の危険箇所などを示した地図です。
- 浸水想定は河川ごとに異なります。河川が複数ある場合は、浸水想定範囲や深さを重ね合わせて表示しています。
- 実際の浸水範囲や深さはこの想定と異なることがあります。また、地図に示した範囲以外でも、想定を超える集中豪雨や小川川・内水の氾濫などにより浸水することもありますので十分注意してください。

平成24年11月 大分市長

避難経路を考慮しましょう
このマップを参考に実際に歩いてみて、安全で避難しやすい経路を確かめましょう。



洪水ハザードマップには、大雨で河川から水が浸水する目安はおよそ次の通りです。自分の家も併せて、どの程度浸水するかを確認し



凡例		
過去に浸水した区域	平成16年～17年 平成5年9月 台風13号(参考)	
浸水想定区域外にある指定避難所		
浸水想定区域内にある指定避難所		
指定避難所が使用できない場合に代替となる施設		
土石流危険渓流		
急傾斜地崩壊危険箇所		
地すべり危険箇所		
土砂災害警戒区域(イエローゾーン)		
土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)		
道路冠水危険箇所		
排水機場・ポンプ場		
水門・樋門		
水位観測所・量水橋		
水防倉庫		
消防団詰所		
消防署・警察署		
避難方向		
洪水予報指定区間		

小猫川浸水想定区域図

おおむね20年に1回程度おこる大雨(1時間雨量11.2ミリ)により、小猫川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を示したものです。

火災による被害をなくすために

火災による被害をなくすためには、日ごろから火災を発生させないように注意するのはもちろんですが、万が一出火したときにどのように行動すべきか覚えておくことも大切です。被害を最小限におさえるために、家族、地域ぐるみで防火意識を高めましょう。

火災への備え

- 就寝中など火災に気づきにくい状況でも、火災による煙や熱を感知して音声などの警報を発することで、火災を早く発見することができる住宅用火災警報器を設置する。
- 被害の拡大を防ぐために消火器を備えておく。

もし出火したら...

火災発生！ 初期対応の3原則を覚えよう

出火の現場に居合わせたらまず「通報」、それから「初期消火」「避難」の順番で行動するのが原則です。ただ状況によって優先順位は異なりますので、逃げ遅れないように、あわてず冷静な判断を心掛けましょう。

行動

1 大声で知らせる！

- 大きな声で「火事だー！」と叫び、隣近所に知らせる。声が出ない場合は、非常ベルを鳴らすか、やかんや鍋など音の出るものをたたくなどして異常を知らせる。
- どんなに小さな火事でも必ず119番に通報する。

行動

2 初期消火

- 火がまだ横に広がっているうちは消火が可能。
- 消火器や水だけでなく、座布団や毛布など手近なものを利用する。

行動

3 早く逃げる！

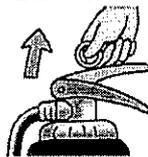
- 天井まで火が燃え広がったら消火は困難。無理せず早めに避難する。
- 可能ならば、燃えている部屋の窓やドアを閉め、空気を遮断してから避難する。

消火器の使い方を覚えておきましょう

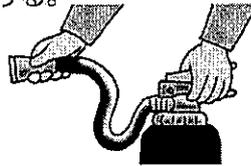
いざというときに、あわてないためにも、消火器取り扱い訓練のときは、積極的に参加して体験しましょう。

消火器の使い方

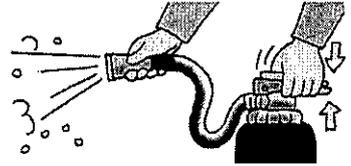
1 安全ピンに指をかけ、上に引き抜く。



2 ホースをはずして火元に向ける。



3 レバーを強く握って噴射する。



消火器の構え方

- ①火の風上にまわり、風上から構える。
- ②やや腰を落として、低く構える。
- ③熱や煙を避け、炎には真正面から向き合わない。
- ④炎を狙うのではなく、火の根元を掃くように左右に振る。



消火器は定期的に点検を！

安全ピン

- ・変形、破損はないか
- ・封印は切れていないか

ホース

- ・ひび割れ、ゆるみ、劣化はないか

消火器の種類

- ・有効な用途を確認する

シール

- ・使用期限内か、使用限界年数を調べて書き加える

レバー

- ・変形、破損はないか

キャップ

- ・変形やゆるみはないか

ゲージがついている場合

- ・圧力を示す針が規定内にあるか

本体・底部

- ・サビや変形はないか

覚えておこう！ 火元別の消火方法

コンロ

- 油鍋に水をかけるのは厳禁。
- 消火器は離れた位置から、鍋の全面を覆うように向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツやバスタオルをぬらして手前からかぶせ、空気を遮断する。

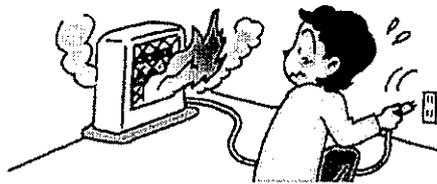


衣類

- 着衣に火がついたら、転げまわって火を消す。風呂場に残り湯があれば、浴槽に飛び込む。

電気機器

- いきなり水をかけると感電の危険がある。コンセントかブレーカーを切り、消火器で消火する。



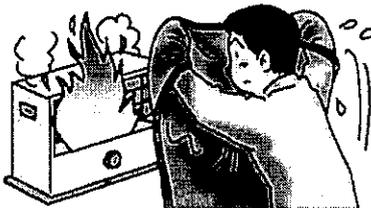
カーテン・ふすま・障子

- カーテンは燃え広がる前に水をかける。できればレールから引きちぎり消火する。
- ふすまや障子などはけり倒して、踏み消す。その後、水をかけてしっかり消火する。



ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツや毛布などをぬらして手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。



たき火

- 消火器を使う。消火器がない場合は水や土で消す。
- 水の準備ができていない場合は、ほうきや木の枝でたたいて消し、その後、水でしっかり消火する。



逃げる

タイミングは天井への延焼！

避難する目安は、天井まで火が燃え移ったとき。火が天井に燃え移るまでの間は初期消火に努めますが、もし天井に燃え移ったら、けっして自分で消火をしようとせず、迷わずすぐに避難をしてください。

住宅用防火機器を活用しましょう

●火災の発生を早く知らせる

〈住宅用火災警報器〉

煙や熱を感知すると、警報音で知らせてくれます。すべての住宅に設置が義務づけられています。



●火災防止に

〈安全装置付調理器具〉

異常な過熱や火が消えた際に、自動的にガスの供給を止めます。



●火災の被害を最小限に

〈防災品〉

火がついても燃え広がりにくい製品。カーテンやカーペット、寝具、エプロンなど。

〈住宅用消火器〉

小型で軽量タイプもあります。

〈簡易自動消火装置〉

火災の熱を感知すると、自動的に薬剤を放出します。

〈住宅用スプリンクラー装置〉

火災の熱を感知すると、部屋全体に放水します。



地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

防災情報

チェックリスト

地域ぐるみで支え合いましょう

大災害が発生したとき、交通網の寸断などにより、防災機関が十分に対応できないおそれがあります。そんなときに頼りになるのが「地域ぐるみの協力体制」です。日ごろから地域の防災活動に参加することが、自分の家族や家を守ることに繋がります。

自主防災活動に参加しましょう

平常時の活動

防災知識の普及・啓発

防災訓練や講習会を通じて、正しい防災知識を住民に伝える。

自主防災会組織の活動でまず重要なのは、防災上の知識、活動の必要性や重要性を一人ひとりに理解してもらうことです。

防災巡視・点検

地域内の危険箇所や防災上の問題点を洗い出し、改善する。

防災資機材の整備・点検

地域の実情に応じて、消火用具や避難・救出のための防災資機材を準備する。



防災訓練

いざというときのために、地域一丸となって訓練を重ねる。

災害時の活動

情報の収集・伝達

公的機関と連絡を取り合い、情報を住民に伝える。

自主防災会組織は、非常時の応急活動の目標として、主に以下のような活動を想定しているケースが多く見られます。

医療救護

負傷者の応急手当を行い、救護所へ移送する。

救出・救助

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助を行う。



避難誘導

住民を避難所などの安全な場所に誘導する。

初期消火活動

出火防止や初期消火活動をする。

避難所の管理・運営

訓練所で給食・給水活動などをする。

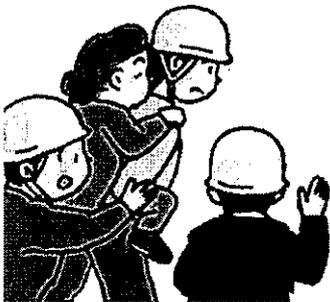
災害時要援護者にやさしいまちづくりを

高齢者や障害がある方などいわゆる災害時要援護者は、大規模な災害が発生したときに被害を受けやすく、地域の皆さまの支援がどうしても必要となる方のことです。こうした災害時要援護者を災害から守るために、地域で協力し合いながら支援していきましょう。

- ① 災害時要援護者の身になって防災環境を点検する
- ② 避難するときはしっかり誘導する
- ③ 困ったときこそ温かい気持ちで
- ④ 日ごろから積極的なコミュニケーションを図る

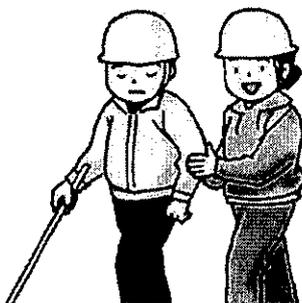
高齢者や傷病者

複数の人で対応する。
緊急のときはおぶって避難する。



目の不自由な人

つえを持つ手と反対側のひじのあたりに軽く触れるか、腕や肩をかして半歩くらい前をゆっくり進む。
階段などの障害物を説明しながら進む。



耳が不自由な人

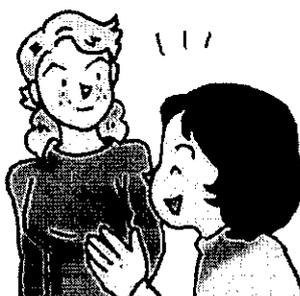
- 口を大きく動かし、はっきりと話す。
- 身ぶりや筆談などで正確な情報を伝える。



誘導する際のポイント

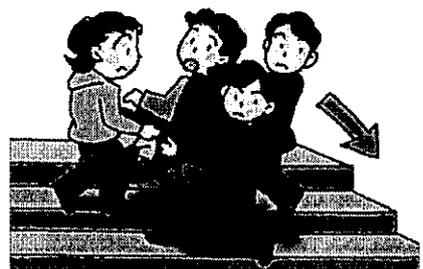
外国人

身ぶり手ぶりで話しかけ、孤立させないようにする。



車いすを利用している人

- 階段では2人以上で援助する。上りは前向き、下りは後ろ向きで移動する。
- 救援者が1人の場合はおぶいひもなどを利用し、おぶって避難する。



地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地震防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

防災情報

チェックリスト

もし、放射線災害が起きたら

放射線災害とは、放射線事故で放射性物質が漏れ、被害が生じることをいいます。放射性物質とは放射線を出す物質のことで、放射線を出す能力を放射能といいます。放射線災害の程度は人間が感じ取ることができないため、放射性物質に関する基本的な知識と正しい対応法を身につけることが重要です。

正確な情報入手する

放射線災害が発生すると、さまざまな情報が氾らんします。誤報や不確かな情報が紛れ込むこともあります。うわさやデマに注意し、公共機関が報じる情報や指示を待ち、あせらずに行動しましょう。

住民が受けると予想される被ばく線量が一定の指標を超えるような場合、「避難」などの指示が出されます。

屋内退避で取るべき行動

屋内退避の指示が出たら、すみやかに自宅などの建物内に入り、ドアや窓を閉めて次の対策を取ってください。



✓ 防災チェックポイント

外部被ばく、内部被ばくから身を守る

外部被ばくから身を守るには…

- 距離による防護
できるだけ遠くに離れる
- 遮へいによる防護
コンクリートなどの建物の中に入り、放射線をさえぎる
- 時間による防護
放射線を受ける時間を短くする

内部被ばくから身を守るには…

- 吸引防止
マスクやハンカチで口をふさぐ
- 摂取防止
汚染された水や食べ物をとらない



※大分市では、市役所、各支所・出張所などでの空間放射線量率の測定結果をホームページで公表しています。なお、大分県のホームページにおいても、大気環境中の放射性物質に関する測定結果を公表しています。

災害時の避難のポイント

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、直ちに避難する必要があります。その際には、高齢者や障害のある人などの災害時要援護者の保護を念頭に置き、隣近所などにも声をかけるなどして避難することが大切です。

自主避難について～危険を感じたらすぐ避難しよう

最近都市部において頻繁に見られる局地的集中豪雨のように、突発的な異常気象の場合には、市からの避難情報が間に合わないケースもあります。その際には、身の危険を感じたら安全な場所にいる家族や知人の家、避難所などへ自主的に避難しましょう。

命を守る最低限の行動とは

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動（①水平避難）だけでなく、**命を守る最低限の行動（②垂直避難）**が必要な場合もあります。

①水平避難



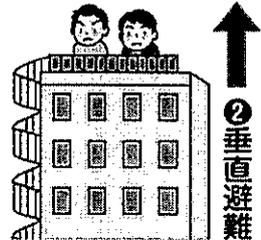
例えば

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
- ひざ上まで浸水している（50センチ以上）
- 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い
- 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある
- 津波が迫っていて、安全な高台に避難できない



②垂直避難：上記の場合、屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上（津波の場合は3階以上）へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください

②垂直避難

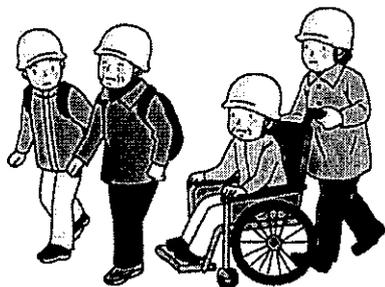


避難に関する3つの情報

災害の危険が迫って居住者の避難が必要になった場合に、避難に関する情報を発令されます。3種類の情報は状況の深刻度に応じて出され、住民の皆さまは各情報に応じた避難行動が求められます。

① 避難準備(要援護者避難)情報 (人的被害の発生する危険性が高まった状況)

- 避難するのに時間がかかる高齢者などの要援護者やその支援者は避難を始めます。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を始めます。



② 避難勧告 (人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況)

- すべての住民は指定された避難場所に避難を始めます。



③ 避難指示(人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況)

- 避難中の住民は直ちに避難を完了してください。
- まだ避難していない住民は直ちに避難します。万一避難する余裕がなければ、**命を守る最低限の行動**を取ります。



地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液状化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

防災情報

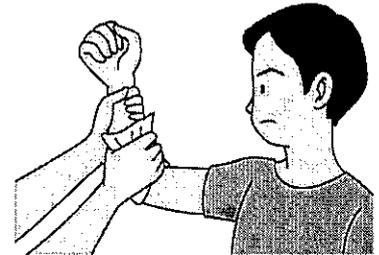
チェックリスト

覚えておきたい応急手当

突然の災害では、けが人が出ても公的消防機関がすぐに駆けつけられるとは限らず、広域になるとライフラインもすぐには復旧しません。そんなときに重要になるのが、事前の知識と備え。万が一のときにすぐに対処ができるよう、応急手当の方法を覚えておきましょう。

出血

- ① 出血部分にガーゼやタオルを当て、その上から手で圧迫する。
 - ② 傷口は心臓よりも高い位置にする。
- ※感染を防ぐため、ビニール手袋やビニール袋を使用するのが望ましい。



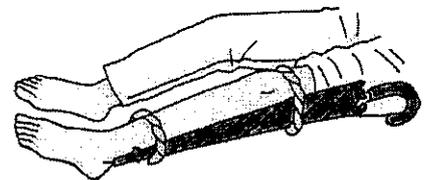
やけど

- ① 流水で冷やす。
- ② 衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさずそのまま冷やす。
- ③ 水疱（水ぶくれ）は破らない。
- ④ 冷やした後は消毒ガーゼかきれいな布で保護し、医療機関へ。



骨折

- ① 折れた部分に添え木を当てて固定し、医療機関へ。
- ② 適当な添え木がなければ、板、筒状にした週刊誌、傘、段ボールなど身近にあるもので代用を。



熱中症の応急手当の方法

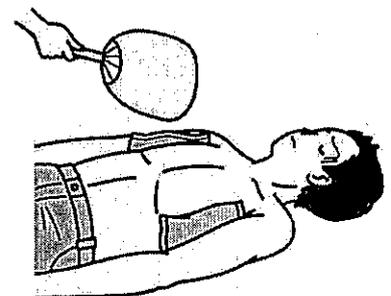
●涼しい環境に避難させる

風通しのよい日陰やクーラーが効いている室内などが適しています。

●衣服を脱がせ、体を冷やす

涼しい場所に移動したら、体から熱を奪うためにうちわや扇風機で風を当てるのが一番効果的です。

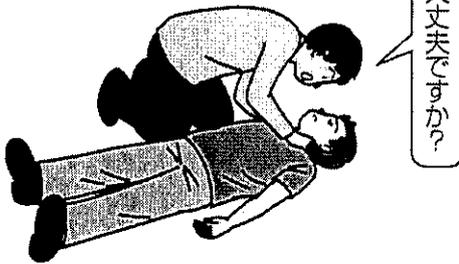
- 風が当たるように衣服を脱がせて皮膚を露出し、あまり汗をかいていないようであれば、皮膚に水をかけて濡らしてから風を当てる必要があります。このとき、氷水をかけるよりもぬるい水をかけてから風を当てるほうが効果的です。
- 氷嚢などが準備できれば、首、脇の下、太ももの付け根などに当てると冷却の助けになります。



人が倒れていたら（心肺蘇生法）

①反応があるかを確認する

傷病者の耳もとで「大丈夫ですか」または「もしもし」と大声で呼びかけながら、肩を軽くたたき、反応があるかないかを見る。

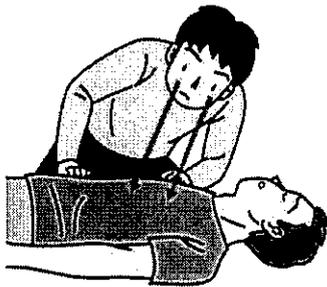


②助けを叫ぶ

- 反応がなければ、大きな声で「誰か来て！人が倒れています！」と助けを求める。
- 協力者が来たら、「あなたは119番へ通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と具体的に依頼する。

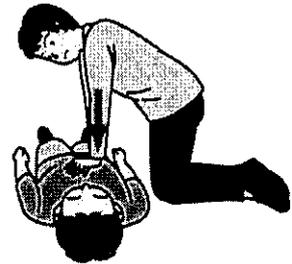
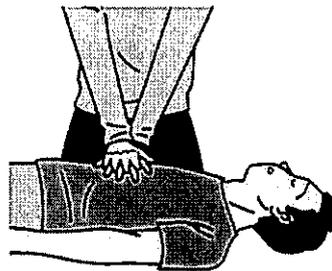
③反応がないときは、呼吸を確認する

傷病者の胸と腹部を見て、上がったりが下がりたりしていれば「呼吸あり」。動いていなければ「呼吸なし」（心停止）と判断し、すぐに胸骨圧迫を行う。



④胸骨圧迫

- ①傷病者の横に両ひざ立ちになる。
- ②胸の真ん中に片方の手のつけ根を置き、他方の手をその上に重ねる。
- ③ひじを伸ばし、胸を5センチ圧迫する。
- ④1分間に100回の速さで圧迫し、これを30回繰り返す。



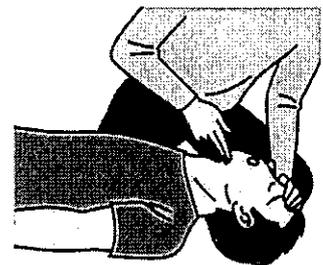
⑤人工呼吸 ※省略可

あお向けに寝かせる。片方の手のひらを顔に、もう片方の手の人さし指と中指を下あごの先に当てて持ち上げ、頭を後ろにそらす。

気道を確認したまま傷病者の鼻をつまみ、口を大きく開けて傷病者の口を覆い、空気が漏れないようにゆっくりと息を2回吹き込む。傷病者の胸が持ち上がるのを確認する。

※口と口が直接接触することに抵抗がある場合には、人工呼吸を省略して胸骨圧迫へ。

※出血や傷があると感染の危険があるため、できるだけ人工呼吸用マスクを使う。



■AED（自動体外式除細動器）の使用手順

- ①心肺蘇生を行っている途中で、AEDが届いたらすぐにAEDを使う準備を始めます。
- ②AEDはいくつかの種類がありますが、どの機種も同じ手順で使えます。電源が入ると音声メッセージと点滅するランプで指示してくれますので落ち着いてそれに従ってください。
- ③可能であれば、AEDの準備中も心肺蘇生を続けてください。



地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

防災マニュアル

防災情報

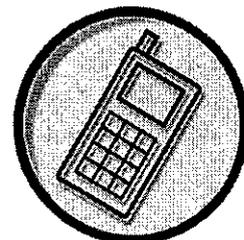
チェックリスト

防災情報の入手方法を知りましょう

災害時における市民の皆さまの行動支援と防災などに活用していただくことを目的として、携帯電話などのメールを活用し、市民の皆さまへ各種災害情報や気象情報などをお知らせする「大分市防災メール」などを実施しています。災害の備えとしてお役立てください。

大分市防災メールで受信できる情報

- ① 大分市の災害時の緊急な情報（避難勧告、避難所開設等の情報）
- ② 気象警報、地震情報、津波警報・注意報、土砂災害警戒情報、洪水予報、竜巻注意情報、光化学スモッグ情報（受信選択可能）
- ③ 大分市からの防災に関するお知らせ
- ④ 天気予報の配信



※登録や情報の利用については無料ですが、メールの送受信や案内ページ等の閲覧にかかる通信費用は、登録者の負担になります。

登録・変更方法

メール配信を希望する方は登録が必要です。メール配信サービスの登録・変更は、携帯電話またはパソコンから「entry@b-oita.jp」へ空メールを送信すると、登録用URLがメールで届きますので、そのURLにアクセスします。そして登録ボタンで完了。詳細設定は「変更」ボタンをクリックしてから行ってください。

※携帯電話などで迷惑メール防止対策の設定をされている方は、登録される前に「bousaimail@b-oita.jp」からの受信が可能なように設定を行ってください。

QRコードを読み取れる携帯電話をお持ちの方は、右のQRコードを読み取ってアクセスすることができます。



緊急速報メールでの災害情報の配信について

市内のNTTドコモ、KDDI(au)、ソフトバンクの携帯電話に対して、市からの災害情報などを一斉に配信します。

メールアドレスの登録は不要です。対応した機種 of 携帯電話であれば自動受信されます。

※機種により緊急速報メールを受信できない場合や受信設定が必要となる場合があります。通信料・月額使用料・情報料は、無料です。

その他の防災情報アクセス一覧

大分市ホームページ	市のホームページに防災に関する緊急情報を掲載します。 http://www.city.oita.oita.jp/
大分県防災・安全安心情報ホームページ	土砂災害情報、雨量・水位観測情報、山地災害危険地区などの各種防災に関する情報が閲覧できます。 http://www.pref.oita.jp/site/bosaianzen/
大分県土砂災害インターネット提供システム	土砂災害危険箇所図や過去の災害履歴などを確認できます。 http://sabo.pref.oita.jp/dosya/index.html
大分地方気象台ホームページ	注意報・警報などさまざまな気象に関する情報が閲覧できます。 http://www.jma-net.go.jp/oita/
国土交通省九州地方整備局 防災情報ホームページ	気象・河川・道路に関する情報が閲覧できます。 http://www.qsr.mlit.go.jp/bousai_joho/

緊急時のテレホンガイド

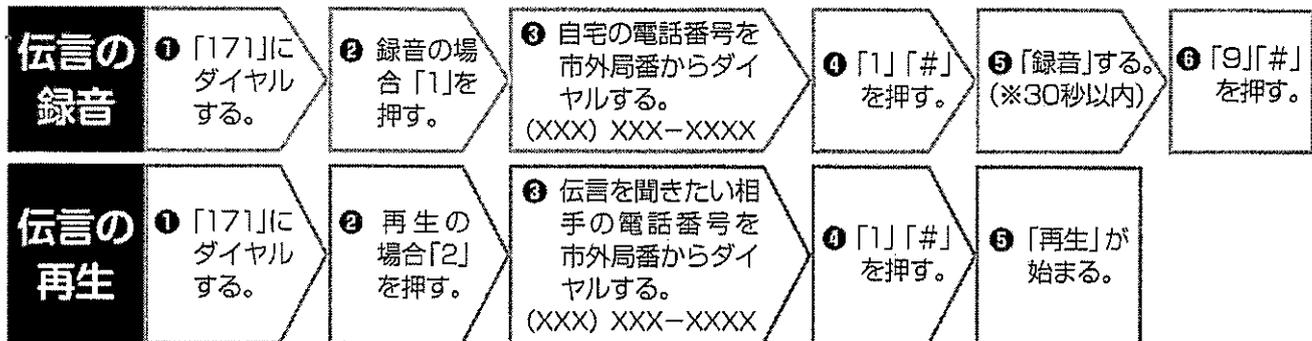
警察は
110番

火事・救急は
119番

海上の事故・事件は
118番

災害用伝言ダイヤル「171」を使いましょう

震度6弱以上の地震など、大きな災害の発生により、被災地へ電話がつながりにくい状況になった場合に利用できるようになる声の伝言板です



*ガイダンスが流れるので、その指示に従って落ち着いて録音・再生をしてください。

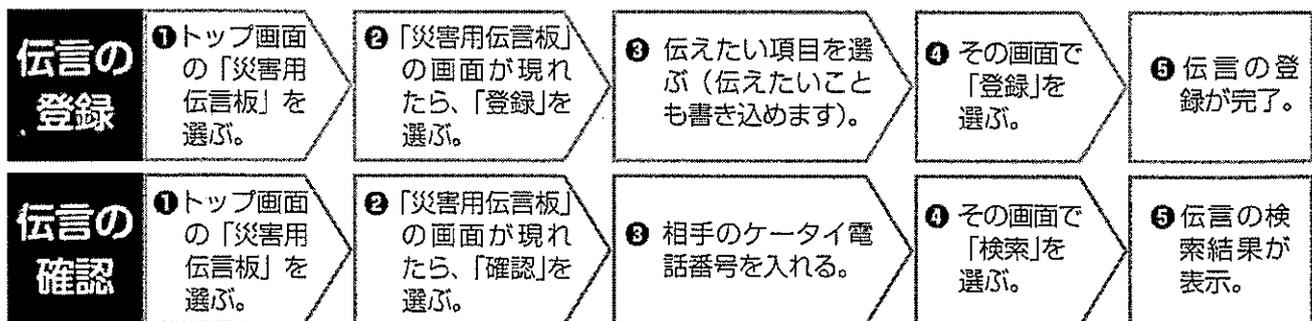
家族で体験してみよう

いざというときに備えて、年に一度は家族で体験利用をしてみましょう。また各電話会社では、掲載日以外のときも体験できるケースがありますので、各電話会社のホームページで確認してください。

- 毎月1日・15日
- 正月三が日(1月1日から1月3日まで)
- 防災週間(8月30日から9月5日まで)
- 防災とボランティア週間(1月15日から1月21日まで)

携帯電話の「災害用伝言板」を利用しよう

震度6弱以上の地震など、大きな災害が発生した場合に携帯電話のネット上に「災害用伝言板」が緊急に設けられます。



ライフライン関連機関

名称	住所	電話
大分市水道局	大分市城崎町1-5-20	097-538-1211
九州電力(株)(大分営業所)	大分市金池町2-3-4	0120-986-504
NTT西日本(大分支店)	大分市長浜町3-15-7	113
大分ガス(株)(大分営業所)	大分市新川西1組	097-534-2211
(社)大分県エルピーガス協会 大分・大分東支部	大分市西新地1-9-5	097-558-5482

地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液化化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

チェックリスト

チェックリスト

非常持出品チェックリスト

非常持出品～災害発生時に最初に持ち出すもの～

品名	点検日記入欄	品名	点検日記入欄
<input type="checkbox"/> 非常食		<input type="checkbox"/> ライター(マッチ)	
<input type="checkbox"/> 飲料水		<input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り、栓抜き	
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備の電池)		<input type="checkbox"/> ティッシュ(ウエットタイプも)	
<input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備の電池・電球)		<input type="checkbox"/> タオル	
<input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん		<input type="checkbox"/> ビニール袋	
<input type="checkbox"/> 救急医療品		<input type="checkbox"/> 上着・下着	
<input type="checkbox"/> 常備薬(処方せん)		<input type="checkbox"/> 軍手	
<input type="checkbox"/> 貴重品(預貯金通帳、印鑑など)		<input type="checkbox"/> シート・新聞紙	
<input type="checkbox"/> 現金		<input type="checkbox"/> 笛	
<input type="checkbox"/> 健康保険証のコピー			
<input type="checkbox"/> 住民票のコピー			
<input type="checkbox"/> ろうそく、ランタン			

非常備蓄品～復旧するまでの数日間を支えるもの～

品名	点検日記入欄	品名	点検日記入欄
<input type="checkbox"/> 食品(缶詰、レトルト食品、ドライフーズなど)		<input type="checkbox"/> ウエットティッシュ、トイレットペーパーなど	
<input type="checkbox"/> 食品(調味料、スープ、みそ汁など)		<input type="checkbox"/> マスク、使い捨てカイロなど	
<input type="checkbox"/> 食品(チョコレート、あめなど)		<input type="checkbox"/> 簡易トイレ	
<input type="checkbox"/> 水(1人あたり1日3リットル、3日分)		<input type="checkbox"/> 予備のメガネ、補聴器など	
<input type="checkbox"/> 燃料(卓上コンロ、固形燃料、予備のガスボンベなど)		<input type="checkbox"/> 工具類(ロープ、バール、スコップなど)	
<input type="checkbox"/> 毛布、タオルケット、寝袋など			
<input type="checkbox"/> 洗面用具			
<input type="checkbox"/> 鍋・やかん			
<input type="checkbox"/> 簡易食器(わりばし、紙皿、紙コップなど)			
<input type="checkbox"/> ラップ・アルミホイルなど			

こんな用意もしておきましょう

乳幼児のいる家庭

ミルク、ほ乳びん、離乳食、スプーン、おむつ、洗濯器、おぶいひも、バスタオルまたはベビー毛布、ガーゼなど

妊婦のいる家庭

脱脂綿、ガーゼ、さらし、T字帯、洗濯器および新生児用品、ティッシュ、ビニール風呂敷、母子健康手帳など

要介護者のいる家庭

着替え、おむつ、ティッシュ、障害者手帳、補助具の予備、常備薬、予備のメガネ、緊急時の連絡先表など

災害時の備え～“水のくみ置き”

水道水は、よく洗浄したペットボトルなどの容器に、水を口いっぱいまで詰めて、冷暗所に置いた場合、3日程度保存できます。万が一に備え、水をくみ置きして、3日程度の水を確保することをお勧めします。

わが家の防災チェックリスト

家の中の対策	<input type="checkbox"/> 家族の役割分担、避難場所、連絡方法、備蓄品等の話し合いを行っている(家族会議)	<input type="checkbox"/> 避難の際の手順を確認している(火の始末、ブレーカーを切る、ガスの元栓を閉めるなど)
	<input type="checkbox"/> 日ごろからご近所とコミュニケーションを図っている	<input type="checkbox"/> 消火器を用意している
	<input type="checkbox"/> 最新の防災情報が入手できる	<input type="checkbox"/> 電気機器や石油ストーブなどにどのような安全装置がついているか確認している
	<input type="checkbox"/> 家具や家電の転倒防止策を取っている	<input type="checkbox"/> 住宅用火災警報器を設置している
	<input type="checkbox"/> 寝室や子ども・高齢者の部屋に転倒しやすい家具などを置いていない	<input type="checkbox"/> 平常時に風呂に水をはっている
	<input type="checkbox"/> 寝室に懐中電灯やくつを常備している	<input type="checkbox"/> 非常用電源に接続できる携帯電話の充電器等を用意しているか
	<input type="checkbox"/> 2階にピアノや重い家具などを置いていない	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 照明器具が落下しないよう固定している	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 本棚などの収納家具では、重いものを下にしている	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ガラス飛散防止フィルムをはっている	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食器棚などの扉が開かないよう金具を取りつけている	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 室内の逃げ道を確保している(通路に物を置いていない)	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

家の中の対策	<input type="checkbox"/> 耐震診断・補強を行った(昭和56年6月以降に建てた家)	<input type="checkbox"/> 車の燃料をまめに給油している
	<input type="checkbox"/> 屋根の点検・補修をしている	<input type="checkbox"/> 自宅周辺の危険箇所を確認している(狭い路地、がけや川べりなど)
	<input type="checkbox"/> ブロック塀や外壁の点検・補修をしている	<input type="checkbox"/> ペット(大型動物や虫類)が逃げ出さないようにしているか
	<input type="checkbox"/> シロアリの駆除を定期的に行っている	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アンテナや温水器はしっかり固定している	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 雨戸にがたつきやゆるみはない	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ベランダに植木鉢などの落下物を置いていない	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> プロパンガスや灯油タンクは転倒防止をしている	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 集合住宅では、バルコニーの仕切りや避難ハッチをふさがない	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ガス漏れ防止用のマイコンメーターがついている	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 側溝や排水溝は掃除をして水はけをよくしてある	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 避難所までの経路、手段を決めてある	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

地震対策

津波対策

津波・地震
ハザードマップ

ゆれやすさ・
液化化危険度
マップ

風水害対策

洪水
ハザードマップ

火災対策

地域防災

放射線災害対策

災害時の避難

応急手当

防災情報

チェックリスト

あなたの家の安全度を

■わが家の危険度チェックポイント

地震・津波の場合	津波の危険区域内か？	はい いいえ	自宅の海拔は？	5m未満 5m以上10m未満 10m以上
	災害被害のチェックポイント	<input type="checkbox"/> 建物の倒壊 <input type="checkbox"/> 家具の転倒 <input type="checkbox"/> 液状化・地盤沈下 <input type="checkbox"/> 火災 <input type="checkbox"/> 津波		
風水害の場合	洪水の危険区域内か？	はい いいえ	浸水した場合の深さは？	_____ m
	災害被害のチェックポイント	<input type="checkbox"/> 河川の氾濫 <input type="checkbox"/> 道路の冠水 <input type="checkbox"/> 集中豪雨 <input type="checkbox"/> 局地的大雨 <input type="checkbox"/> 高潮 <input type="checkbox"/> 突風・竜巻 <input type="checkbox"/> 床下浸水 <input type="checkbox"/> 床上浸水		
土砂災害の場合	土砂災害の危険区域内か？	はい いいえ	過去に土砂災害の被害がある？	ある（ _____ 年） ない
	災害被害のチェックポイント	<input type="checkbox"/> かけ崩れ <input type="checkbox"/> 土石流 <input type="checkbox"/> 地すべり		
わが家の住宅環境は？	<input type="checkbox"/> 住宅密集地 →	周囲で火災が発生すると、燃え移るおそれがあります。また、建物の倒壊により、避難経路がふさがれるおそれがあります		
	<input type="checkbox"/> 地下・半地下 →	集中豪雨・局地的大雨などで、他の建物より早く浸水被害に遭いやすい。また、ドアが開かなくなり、避難できなくなるおそれがあります		
	<input type="checkbox"/> 中・高層階 →	地震の揺れが長く、エレベーターの停止、断水などの被害のおそれがあります		
	<input type="checkbox"/> 住宅造成地 →	地盤がゆるく弱いところでは、地震の揺れによって地面が泥湿地のような状態になることがあります。また、豪雨でゆるくなった斜面の一部が地すべりを起こすおそれがあります		

■津波のときの避難場所を確認しよう

名称	住所	自宅からの到着時間（分）

■津波避難ビル・避難場所を確認しよう

名称	住所	自宅からの到着時間（分）

調べておきましょう

■洪水・土砂災害発生時の避難場所を確認しておこう

名称	住所	自宅からの避難時間(分)

■浸水に備えて2階以上に運んでおきたい家財道具などを書いておこう

--

■火の始末のためのチェックポイント

<input type="checkbox"/> 台所などいつも火を使うところには消火器を準備しているか	はい	いいえ
<input type="checkbox"/> 消火器の使い方がわかるか	はい	いいえ
<input type="checkbox"/> 消火器の有効期限が過ぎていないか	有効期限(年)
<input type="checkbox"/> いざというときの初期消火方法を考えているか	はい	いいえ
<input type="checkbox"/> 電話が使えないときの消防への連絡方法はどうか		
<input type="checkbox"/> 町内での共有の消火器や消火設備があるか知っているか	はい(場所:) いいえ
<input type="checkbox"/> 近くに防火用水があるか知っているか	はい(場所:) いいえ

■近くにある自主防災会組織を確認しよう

地元の自主防災会組織名	責任者(会長・班長)		連絡網(次の連絡相手宅)	
	氏名		氏名	
	TEL		TEL	
■自主防災会組織での担当は?(決まっていれば)		■近くの自主防災倉庫の場所は?		
■自主防災倉庫に入っているものは?				

大分市指定避難所一覧

地区別	番号	校区	施設名	津波浸水想定区域外(南海トラフ) がけ崩れ等の恐れのある箇所外 洪水浸水想定区域外			避難所の海拔 海拔10m以上	地区別	番号	校区	施設名	津波浸水想定区域外(南海トラフ) がけ崩れ等の恐れのある箇所外 洪水浸水想定区域外			避難所の海拔 海拔10m以上
				○	○	○						○	○	○	
大分	1	金池	金池小学校	○	○		4m	大分	34	津留	津留小学校	○	○		3m
	2	金池	上野ヶ丘中学校	○	○	○	7m		35	舞鶴	舞鶴小学校	○			3m
	3	金池	大分上野丘高等学校	○	○	○	31m		36	東大分	東大分小学校	○			4m
	4	金池	コンパルホール		○	○	4m		37	東大分	城東中学校	○	○	○	15m
	5	荷揚	荷揚町小学校		○		3m		38	日岡	日岡小学校	○	○	○	3m
	6	長浜	長浜小学校		○	○	5m		39	日岡	大分東部公民館	○	○	○	4m
	7	中島	中島小学校		○		3m		40	桃園	桃園小学校	○	○	○	8m
	8	中島	浜町保育所	○	○		2m		41	桃園	原川中学校		○		4m
	9	住吉	住吉小学校		○		4m		42	明野東	明野東小学校	○	○	○	54m
	10	住吉	碩田中学校		○		3m		43	明野西	明野西小学校	○	○	○	82m
	11	春日	春日町小学校	○	○	○	5m	44	明野北	明野北小学校	○	○	○	66m	
	12	春日	王子中学校	○	○	○	5m	45	明野南	明野中学校	○	○	○	85m	
	13	春日	生石保育所	○	○		5m	46	明野南	明治明野公民館	○	○	○	45m	
	14	春日	大分西部公民館	○	○	○	7m	47	鶴崎	鶴崎小学校		○	○	4m	
	15	大道	大道小学校	○	○	○	6m	48	鶴崎	鶴崎公民館		○	○	3m	
	16	大道	県立豊学校	○	○	○	8m	49	鶴崎	小中島公民館		○	○	4m	
	17	西の台	西の台小学校	○	○	○	64m	50	三佐	三佐小学校		○		3m	
	18	西の台	大分西中学校	○	○	○	94m	51	三佐	家島公民館		○		3m	
	19	西の台	大分西高等学校	○	○	○	7m	52	別保	別保小学校		○	○	5m	
	20	八幡	八幡小学校			○	9m	53	別保	鶴崎中学校		○	○	4m	
	21	神崎	神崎小学校	○		○	36m	54	別保	笔格老人会 上野幼稚園	○	○	○	5m	
	22	豊府	豊府小学校	○	○	○	9m	55	明治	明治小学校	○	○	○	45m	
	23	南大分	南大分中学校	○	○	○	13m	56	明治	大東中学校	○	○	○	30m	
	24	南大分	南大分公民館		○	○	10m	57	明治	岡原公民館	○	○	○	35m	
	25	南大分	南大分体育館		○	○	7m	58	明治北	明治北小学校	○	○	○	40m	
	26	城南	城南小学校	○	○	○	33m	59	高田	高田小学校		○	○	7m	
	27	往隈	城南中学校		○	○	11m	60	松岡	松岡小学校	○	○	○	16m	
	28	滝尾	滝尾小学校	○	○	○	14m	61	川添	川添小学校	○		○	16m	
	29	滝尾	滝尾校区公民館	○	○	○	8m	62	川添	宮内ハイランド公民館	○	○	○	52m	
	30	下郡	下郡小学校	○	○	○	5m	63	川添	陽光台公民館	○	○	○	15m	
	31	森岡	森岡小学校	○	○	○	58m	64	川添	広内公民館	○		○	77m	
	32	森岡	南部公民館	○	○	○	9m	65	上戸次	上戸次小学校		○	○	23m	
	33	森岡	森岡校区公民館		○	○	7m	66	上戸次	大塔公民館	○	○	○	58m	

地区別	番号	校区	施設名	津波浸水想定区域外(南海トラフ)			避難所の海拔	津波浸水想定区域外(南海トラフ)	がけ崩れ等の恐れのある箇所外	洪水浸水想定区域外	地区別	番号	校区	施設名	津波浸水想定区域外(南海トラフ)			避難所の海拔
				○	○	○									○	○	○	
大南	67	戸次	戸次中学校	○	○	○	11m	○	○	坂ノ市	100	坂ノ市	坂ノ市小学校	○	○	○	5m	
	68	判田	判田小学校	○	○	○	41m	○	○		101	坂ノ市	坂ノ市中学校	○	○	○	5m	
	69	判田	判田中学校	○	○	○	22m	○	○		102	坂ノ市	坂ノ市公民館	○	○	○	6m	
	70	判田	判田米良公民館	○	○	○	50m	○	○		103	坂ノ市	細公民館	○	○	○	4m	
	71	判田	大分南高等学校	○	○	○	53m	○	○		104	小佐井	大分東高等学校	○	○	○	25m	
	72	判田	ひばりヶ丘公民館	○	○	○	49m	○	○		105	小佐井	和光保育園	○	○	○	5m	
	73	竹中	竹中小学校	○	○	○	25m	○	○		106	丹生	丹生小学校	○	○	○	18m	
	74	竹中	竹中中学校	○	○	○	44m	○	○		107	丹生	久土公民館	○	○	○	18m	
	75	竹中	河原内くすのきホール	○	○	○	95m	○	○		108	丹生	延命寺公民館	○	○	○	31m	
	76	吉野	吉野小学校	○	○	○	93m	○	○		109	本神崎	こうざき小学校	○	○	○	18m	
種田	77	吉野	吉野中学校	○	○	○	73m	○	○	110	木佐上	(旧)木佐上小学校	○	○	○	24m		
	78	種田	種田小学校	○	○	○	19m	○	○	111	大志生木	縦の木会館	○	○	○	5m		
	79	種田	種田公民館	○	○	○	14m	○	○	112	佐賀関	佐賀関中学校	○	○	○	8m		
	80	種田	種田西中学校	○	○	○	18m	○	○	113	佐賀関	佐賀関小学校	○	○	○	17m		
	81	種田	胡麻鶴公民館	○	○	○	28m	○	○	114	佐賀関	佐賀関公民館	○	○	○	2m		
	82	宗方	宗方小学校	○	○	○	52m	○	○	115	佐賀関	関崎海星館	○	○	○	121m		
	83	宗方	下宗方公民館	○	○	○	11m	○	○	116	佐賀関	田中体育館	○	○	○	11m		
	84	宗方	上宗方公民館	○	○	○	16m	○	○	117	佐賀関	白木体育館	○	○	○	10m		
	85	横瀬	横瀬小学校	○	○	○	35m	○	○	118	佐賀関	田ノ浦生活改善センター	○	○	○	8m		
	86	横瀬西	横瀬西小学校	○	○	○	42m	○	○	119	佐賀関	(旧)一尺屋小学校体育館	○	○	○	10m		
田原	87	東種田	東種田小学校	○	○	○	14m	○	○	120	野津原東部	野津原東部小学校	○	○	○	46m		
	88	田尻	田尻小学校	○	○	○	44m	○	○	121	野津原東部	入蔵公民館	○	○	○	132m		
	89	寒田	寒田小学校	○	○	○	56m	○	○	122	野津原東部	野津原公民館	○	○	○	44m		
	90	寒田	種田東中学校	○	○	○	52m	○	○	123	野津原東部	野津原中学校	○	○	○	108m		
	91	敷戸	敷戸小学校	○	○	○	47m	○	○	124	野津原東部	野津原中部小学校	○	○	○	159m		
	92	鷺野	鷺野小学校	○	○	○	19m	○	○	125	野津原東部	野津原西部小学校	○	○	○	239m		
	93	賀来	賀来中学校	○	○	○	16m	○	○	126	今市	荷小野公民館	○	○	○	235m		
	94	賀来	賀来公民館	○	○	○	18m	○	○	127	今市	小原公民館	○	○	○	480m		
	95	大在西	大在西小学校	○	○	○	4m	○	○	128	今市	今市町公民館	○	○	○	471m		
	96	大在	大在小学校	○	○	○	5m	○	○	129	今市	今市健康増進センター	○	○	○	501m		
大在	97	大在	大在中学校	○	○	○	17m	○	○	130	今市	練ヶ迫公民館	○	○	○	390m		
	98	大在	大在公民館	○	○	○	4m	○	○	131	金池	ホルトホール大分	○	○	○	6m		
	99	大在	大在浜公民館	○	○	○	8m	○	○									

※平成25年7月追加

わが家の防災メモ

■緊急連絡先

連絡先	電話	連絡先	電話
市役所			
消防署			
ガス会社			

■家族の連絡先

家族の名前	連絡先（勤務先・学校）	電話	携帯電話

■親せき・知人の連絡先

名前	電話	携帯電話	メモ

■家族のデータ

名前	生年月日	血液型	アレルギー	持病	常備薬

■避難場所

一時避難場所	家族が離ればなれになったときの集合場所

■お問い合わせ

大分市 総務部 防災危機管理課 電話 097-537-5664（直通） FAX 097-533-0252
E-mail bosaikikikanri@city.oita.oita.jp



環境に配慮し、古紙配合率80%以上・グリーン購入法総合評価値80以上の用紙及び植物油インキを使用しています

増刷 平成28年1月
禁無断転載©東京法規出版
N15